

11 動物遺体

(1) はじめに

動物遺体は、通路跡や河川跡、および各区画内の井戸跡、土壌、溝跡などから出土しており、年代的には概ね 8世紀後半代～10世紀中頃に位置付けられる。とくに、河川跡から出土した動物遺体は種類・量が多く、しかも保存状況が良好で、廃棄当時の状況をそのまま遺存しているとみられる資料が多い。一方、区画内の土壌や溝などから出土したものは概して保存状況が悪く、同定のみならず、取り上げることさえできなかった資料も少なくない。また、今回出土した総数は約 2 500点にのぼるが、同定不能な資料も多くみられ、最終的に科、属、種のレベルまで分類、同定できた資料は、貝類 2種 13点、魚類 2種 3点、鳥類 6種 17点、哺乳類 7種 1755点にとどまる(第 49表)。

以下、各種動物遺体の出土状況や種としての特徴などについて述べていくが、今回出土した動物遺体の多くは発掘時に取り上げられたものであり、必ずしも網羅的に採集されたものとは言い難い。とくに、魚貝類や鳥類については、骨自体の脆弱さやサンプリング・エラーなどによるものと思われるが、出土量が極端に少なく、これらの利用状況を知る上では部分的な資料と言わざるを得ない。

軟体動物門 Phylum Mollusca

二枚貝綱 Class Pelecypoda

イシガイ科 Unionidae gen.et sp.indet.

ハマグリ Meretrix lusoria

脊椎動物門 Phylum Vertebrata

硬骨魚綱 Class Osteichthyes

フサカサゴ科 Scorpaenidae gen.et sp.indet

カレイ科 Pleuronectidae gen.et sp.indet

鳥綱 Class Aves

ウミウ Phalacrocorax capillatus

ウミガラス Uria aalge

ガンカモ科 Anatidae gen.et sp.indet.

オジロワシ Haliaeetus albicilla

キジ Phasianus colchicus

カラス類 Corvus gen.et sp.indet

哺乳綱 Class Mammalia

イヌ Canis familiaris

クヌキ Nyctereutes procyonoides

イノシシ Sus scrofa

ニホンジカ Cervus nippon

ウシ Bos taurus

ウマ Equus caballus

ヒト Homo sapiens

第49表 出土動物種名表

(2) 各種動物遺体の特徴

a 貝類

貝類は鹹水種であるハマグリと淡水種であるイシガイ科の一種が出土した。量は少なく、後者については殻皮のみで、左右の判別のつかないものが多い。

b 魚類

魚類はフサカサゴ科の一種とカレイ科の一種が出土した。いずれも鹹水種であるが、量的には少なく、前者が角舌骨と上舌骨、後者が火を受け白色灰化状態にある尾椎の各 1点を検出したにとどまる。

c 鳥類

ウミウ

S D 2000河川跡の 10層 9世紀前葉頃 から出土した。特定の部位に偏在することなく、頭蓋骨、胸骨、腸骨、前・後肢骨などほぼ全身の骨格が揃っている。骨長は最大長で尺骨が 156 0mm、大腿骨が 61 8mm、脛骨が 116 8mmを測る。

ウミガラス

S E 2267井戸跡から左上腕骨が 1点出土した。最大長 70 4mm、近位端幅 16 4mm、遠位端幅 9 8mmを測る。

ガンカモ科の一種

S D 2000河川跡の 10層から右尺骨が 1点出土した。近位端から骨体の中央部にかけて欠損しており最大長は不明であるが、中央径 7 2mm、遠位端幅 15 2mmを測る。マガン相当の大きさのものとみられる。

オジロワシ

S D 2000河川跡の 10層から右中足骨が 1点出土した。最大長 93 1mm、遠位端幅 24 0mmを測る。

キジ

S E 892井戸跡（9世紀前葉頃）から左上腕骨が 1点出土した。最大長 73 1mm、近位端幅 9 3mm、遠位端幅 14 4mmを測る。

カラス類

東西大路・西 2道路の路面 2層 10世紀前半 から左上腕骨が 1点出土した。最大長 77 9mm、近位端幅 21 3mm、遠位端幅 15 7mmを測る。

このほか、S K 3205土壌からも右上腕骨が 1点出土しているが、近位端を欠く破片資料で、種の特定はできなかった。

d 哺乳類

イヌ（第 50～52表）

出土状況 S D 2000河川跡、道路跡、井戸跡などから 161点、最小個体数にして 51個体のイヌが出土した 第 50表。とくに、S D 2000河川跡の 8～10層を中心とした層 9世紀代 からの出土量が多い。これらはある特定の部位に偏在することなく出土しているが、後述する 1例を除き、頭骨や中軸骨、四肢骨がばらばらに散乱した状態にあり、同一個体の特定が可能なものは認められなかった。下顎骨や四肢骨の表面には、解体の際に付いたとみられる細かな刃傷の認められるものもあり、出土したイヌが食用となっていた可能性が高いと考えられるが、これ以外に意図的な切断や打割、火を受けたような痕跡は認められず、肉をはずした後はそのまま廃棄されたものとみられる。なお、狭い範囲から数個体分の骨が出土したのもあり、一度にまとめて解体処理するようなこともあったものと思われる。

る。

一括出土のイヌ S D 2000河川跡 10層から出土したもので、年代的には 9世紀前葉頃に位置付けられる。頭蓋骨 N o21、左右下顎骨 N o22 23、左右肋骨 N o29 31 32 34、第 1胸椎 N o35、右上腕骨 N o30、右橈骨 N o27、左尺骨 N o28 が一括出土した。

頭蓋骨は最大頭蓋長が 166 1mmで、本遺跡出土の頭蓋骨の中では大きいタイプに属する。前頭部から口吻部にかけての窪み（ストップ）はさほど大きくないが、頭蓋高が高く、前頭部正中線部分の窪みは顕著である。また、頬骨弓はやや湾曲しながら張り出し、口吻部は細く高いなど全体としては弥生犬的であるが、その一方で吻長がとくに長いといった特徴を有する。雌雄については、小野寺他 1987によれば、矢状隆起がプレグマの前方で合し、顕著に発達していることや、後方からみた前頭部のくびれが緩やかであることなどからみて、雄と推測される。

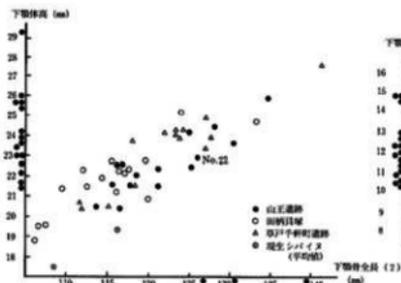
下顎骨は最大長が 126 4mmで、本遺跡出土の中では平均的な大きさのものであるが、下顎体厚は第 3後臼歯部分で 10mm程と薄く、全体的に華奢である。咬耗は上下歯ともかなり進んでいる。とくに下顎の大歯および第 1・2後臼歯で著しく、後臼歯では咬頭がなくなるほど摩滅している。かなり老齢の個体と思われる。なお、上顎左右の第 1・2切歯、右の大歯および第 4前臼歯から第 2後臼歯にかけて歯槽が埋まり、右上顎部分には若干の骨増殖が認められる。歯周病等による病変とみられる。

四肢骨は上肢骨のみ出土した。上腕骨に比べて、橈・尺骨が長いのが特徴である。各部位とも縄文犬に比べて細長く、全体的に華奢な印象を受ける。

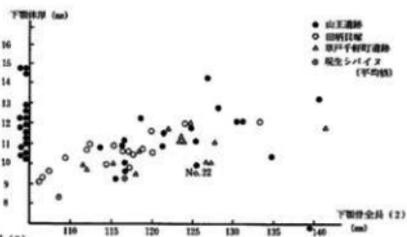
形態的な特徴 ここでは、一括出土のものを含め、本遺跡出土イヌの形態的な特徴を述べる。頭蓋骨には大小 2種類のタイプがあり、大きいタイプ N o21 344 についてはすでに述べたとおりである。

一方、小さいタイプの頭蓋骨 N o20 412 は、頭蓋高が高く弥生犬的な特徴もみられるが、大きさ（頭蓋最大長 152 8mm）は縄文犬と変わらず、ストップや頬骨弓の張り出しが小さく、口吻部が太いことなど、より縄文犬的な特徴を有する。

下顎骨は左右合わせて 42点出土しているが、一括出土のイヌにみられるような下顎骨長に比して下顎体厚が薄く華奢なもの N o22 23 70 や厚く頑丈なもの N o261 259 296 2242、また古代犬としてはかなり大形の部類に入るもの N o340 2242 など、大きさや厚さにはかなりのバラエティーが認め



第199図 イヌ下顎骨の全長・体高分布図



第200図 イヌ下顎骨の全長・体厚分布図

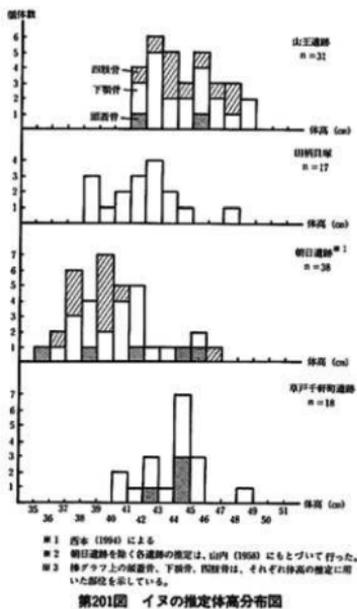
られる(第 51 52表、第 199 200図)。下顎骨全長と第 1 後臼歯 M1 部分の体高および体厚の関係をみてみると、下顎体高については田柄貝塚出土の縄文犬(茂原・小野寺: 1986)や広島県草戸千軒町遺跡出土の中世犬(松井・茂原: 1995)とほぼ同様の傾向性が認められるが、下顎体厚についてはこれらと比べて分布の範囲が広く、とくに 12mm以上の厚く頑丈なものが多い傾向にある。形態的には下顎骨底部の湾曲が弱く、第 2 前臼歯部分と第 3 後臼歯部分の下顎体高の差が小さい弦生犬以降の特徴を有するものが大半を占めているが、やや丸みをもって湾曲し、第 2 前臼歯部分が細くなる縄文犬的な特徴をもつものもみられる N o146。ただし、これらの中には下顎底の湾曲が強く、第 1 後臼歯部分がとくに下に張り出すような北方犬的な特徴をもつものはみられなかった。

四肢骨については、計測可能な資料が少なく

詳細な特徴を述べることはできないが、縄文犬や弥生犬に比べ、全体的に細長く華奢である。

大きさ イヌの大きさについては、山内 1958 の推定式を用いて、頭骨および四肢骨の骨長から体高(肩甲骨の最高点の高さ)を推定した。頭蓋骨 3例、下顎骨 20例、四肢骨 12例 同一個体を含むで体高の推定が可能であった。推定結果については、同一個体の資料でみると、頭骨では四肢骨よりも 1~2cm大きく推測される傾向があり多少の誤差を含んでいるものとみられるが、体高分布としては 40~49cmの範囲に収まるものと思われる(第 201 図)。同様に推定した各時代の犬と比較してみると、田柄貝塚出土の縄文犬や愛知県朝日遺跡の弥生犬(西本: 1994)よりも大きく、草戸千軒町遺跡出土の中世犬とほぼ同大の中型犬が多い傾向にある。ところで、本遺跡のイヌには体高 42cmと 45cm前後にピークが認められた。雌雄差を反映している可能性も考えられるが、頭蓋骨や下顎骨にみられた形態的なバラエティーからみて、形質の異なるイヌの存在を反映したものである可能性が高いと思われる。

年齢・性別 年齢については、下顎骨で犬歯および第 1 前臼歯が萌出途中の幼個体が 1例 生後 2~3ヶ月齢未満、N o401 認められたが、このほかに頭蓋骨・下顎骨で永久歯が未萌出の個体はみられなかった。また、四肢骨でも関節部が未癒合のものは上腕骨(遠位端)の 1例(生後 8~9ヶ月齢未満、N o2397)のみであり、幼若獣の占める割合はきわめて低いものとみられる。一方、一括出土のイヌのように、後臼歯の咬頭が平坦になるほど摩滅している個体は 3例のみ(N o296 563 2058)であり、成熟でも咬耗があまり進行していない比較的若い個体が多いものと思われる。



性別については、頭蓋骨の大小それぞれのタイプで、頭頂部の正中に形成される隆起の状態と位置や、後方からみた前頭部のくびれ方などに性差（小野寺他：1987）が認められた。この他の部位については、個々の骨にみられる特徴が雌雄あるいは形質の違いによる差なのか明らかではなく、出土したイヌの性比等について述べることはできないが、少なくとも雌雄の両方の個体が含まれていることは確実である。

病変 一括出土のイヌの他に、歯が脱落し、歯槽が埋まっているものが2例認められた。N o473 2161。N o473では第1・3前臼歯、N o2161では第2前臼歯が脱落しており、歯周病による可能性が考えられる。このほか、骨折の痕跡を残すものが、肋骨 N o121 と上腕骨 N o258 に各1例ずつ認められた。

タヌキ

SD 2000河川跡の3層から右下顎骨が1点出土した。下顎枝および下顎角突起部分を欠き、歯は第2前臼歯と第1・2後臼歯のみ残存している。

イノシシ（第55表）

SD 2000河川跡、道路跡、井戸跡、土壌から14点、最小個体数にして12個体のイノシシが出土した第55表。量的に少なく、左右橈骨、左尺骨、左右大腿骨、右脛骨、基節骨、上顎および下顎の遊離歯を1〜2点ずつ検出したにすぎない。また、SD 2000を除けば各遺構とも1点のみの出土であり、出土状況としては散在的である。四肢骨の大半は割れた状態にあり、中には解体痕とみられる細かい刃傷や明らかに打割れによるとみられる痕跡を残すものも認められた。年齢については、四肢骨骨端の化石化状況を見る限り未癒合のものは認められず、少なくとも3歳未満の幼若獣は含まれていないものと思われる。

ニホンジカ（第53・54表）

出土状況 SD 2000河川跡、道路跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土壌、溝跡などから115点、最小個体数にして52個体のニホンジカが出土した第53表。各遺構や層ごとに出土状況を見てみると、SD 2000および道路跡では特定の部位に偏在することなくまとまった出土状況を示しているのに対して、区画内の遺構からは角や四肢骨のうちの1部位のみが単独で出土することが多い傾向にある。前者についても量的には少なく、また1個体分の骨が遺棄あるいはまとまって廃棄されたような状況を示すものではなく、ばらばらに散乱した状態で検出されている。部位別にみると、角（落角を含む）、下顎骨、四肢骨では上腕骨、脛骨、距骨が多く、頭蓋骨や脊椎骨、肋骨、肩甲骨、中足骨、指骨などが少ない傾向にある。

骨の残存状況 四肢骨の大半は割れた状態で出土している。解体の際に付いたとみられる細かな刃傷や鋸状の切痕が認められるもの、打割れにより割れ口が螺旋（スパイラル）状を呈するものなどがあり、上腕骨、橈骨、大腿骨、脛骨ではとくに高い頻度で人為的な痕跡が認められた。とくに打割れについては、解体後に意図的に骨を割るような行為が行われたことを示しており、肉以外にも骨髓の抽出などの利用がなされたものと考えられる。一方、こうした割れとは異なる金属器による剥離や削りの痕跡が認められるものも多くみられた。これは角や中手・中足骨、肋骨などの骨角製品の素材となった特定の部位にのみ認められることから、骨角製品の製作に伴うものと考えられる。ところで、踵骨や

距骨、指骨や四肢骨の小破片の中には、焼けて黒変あるいは白色灰化状態にあるものもみられた。今回出土した獣骨の中で、確認できた焼骨はすべてニホンジカの骨であり、解体後廃棄に至るまでの過程が他の動物とは異なっていたことを示唆している。

年齢 ニホンジカの下顎骨は左右合わせて 8 点出土しているが、このうち 6 例で年齢の推定が可能であった。これによると、第 2 後臼歯 (M2) が未萌出段階 (0.5-1 歳) のものが 1 例、第 3 後臼歯 (M3) が未萌出および萌出途中の段階 (1.5-2 歳) のものが 3 例、第 3 後臼歯が萌出後、咬耗がやや進み歯頸線が第 2 後臼歯舌側までおよんだ段階 (4.5 歳) のものが 1 例、咬耗が進み歯頸線が第 3 後臼歯頰側までおよんだ段階 (10 歳前後) のものが 1 例みられた。また、角では 2 尖程度のものや肩甲骨では幼獣程度の大きさのもの、四肢骨では大腿骨 (近位端、2.5-3 歳未満) や脛骨 (近位端、3-3.5 歳未満) などで関節部が未癒合のものもみられた (註 1)。今回の資料をもって本遺跡におけるニホンジカの年齢構成を明らかにすることはできないが、少なくとも 2 歳未満の若獣が一定量含まれていることは確実であり、肉量的にも成獣に満たない個体についても捕獲の対象となっていたものと考えられる。

ウシ (第 56・59 表)

出土状況 S D 2000 河川跡、道路跡、井戸跡、土壌、溝跡などから 114 点、最小個体数にして 57 個体のウシが出土した 第 56 表。S D 2000 および道路跡からの出土量が多く、各部位が出土しているが、1 個体分の骨がまとまって遺棄あるいは廃棄されたような状況を示すものはなく、ばらばらに散乱した状態で検出されている。一方、区画内でウシが検出された遺構は少なく、しかも遊離歯や四肢骨のうちの 1 部位のみが単独で出土することが多い。部位別にみると、下顎骨、上顎および下顎の遊離歯、橈・尺骨、中手骨、中足骨が多く、脊椎骨、肩甲骨、上腕骨、寛骨、大腿骨、踵骨、距骨、指骨などが少ない傾向にある。なお、肋骨をはじめ、頭蓋骨や脊椎骨、上腕骨、寛骨の破片の中には、ウマとの区別がつかないものもみられたが、これらについては一括して第 64 表に掲載した。

骨の残存状況 頭蓋骨や下顎骨などに人為的な痕跡の認められるものはないが、四肢骨には細かな刃傷や鉸状の切痕などの解体の際に付いたとみられる痕跡が約 3 割の骨に認められた。また、保存状況が悪く確認できたものは少ないが、意図的な打割痕や、前節 (-10 骨角製品) で述べたような金属器によって切断されたものなど、肉以外の利用がなされたことを示す骨も認められた。

大きさ・年齢 ウシの大きさについては、骨長からの体高推定は行っておらず詳細は不明であるが、橈骨や脛骨の骨端部の幅・径からみて、体高 115-125cm 程と推定される。古代のウシは、多賀城跡 121.7m 西中川他: 1991、市川橋遺跡 126.9m 西中川他: 1991、藤田新田遺跡 117.4 2.5m 岩見地: 1994 でも出土しているが、今回出土したウシはこれらとほぼ同大で、古代以来の在来種である口之島牛や見島牛の雌の大きさに相当する。

年齢については、推定可能な上顎・下顎歯 16 点のうち、第 3 後臼歯 (M3) が未萌出段階 1.5-2.5 歳のものが 1 例、第 3 後臼歯が萌出直後で、前臼歯が乳歯段階 (2.5 歳前後) のものが 2 例認められたが、このほかに永久歯が未萌出の個体はみられなかった。永久歯列完成後 (3 歳以上) の個体については詳細な年齢推定を行っていないが、エナメル質の咬耗がかなり進み、歯冠高の低くなっている

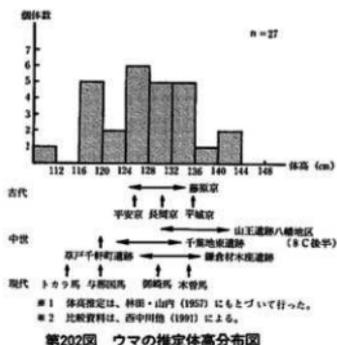
個体が目立っており、老齢の個体が多く含まれているものと思われる。四肢骨についても、関節部が未癒合のものは脛骨（近位端）の1例（35-4歳未満）のみで、これ以外はすべて骨化が終了しており、若獣は少なかったものとみられる。なお、老齢の個体の中には、歯が脱落し、骨に病変のあるものが2例（No1975 2037）認められた。歯周病の可能性が考えられる。

ウマ（第57・58 60-63表）

出土状況 今回出土した動物遺体の中で最も出土量が多く、SD 2000河川跡、道路跡、井戸跡、土壌、溝跡などの多数の遺構から1332点、最小個体数にして206個体のウマが出土した（第57 58表）。とくに、SD 2000と道路跡からは、保存状況の良い骨が特定の部位に偏することなく多量に出土している。検出状況としては、頭骨や中軸骨、四肢骨がばらばらに散乱した状態で出土したものが多く、中には1個体分の骨が一括して検出されたものや数個体分の骨が狭い範囲に集中して検出されたもの、四肢骨のみが関節した状態で検出されたもの（図版94-5-6）などもみられたが、とくに埋葬されたような状態を示すものは認められなかった。一方、区画内から出土したウマの骨については、井戸跡などの一部の遺構を除けば、ピヒアナイト（藍鉄鉱）が析出するなど、概して保存状況が悪い。このため、取り上げや部位の特定ができなかったものも多く、上顎および下顎歯のみ確認されたものも少なくない。よって、区画内の遺構出土のウマについては、頭骨とこれ以外の部位とを直接比較することはできないが、少なくとも埋没の段階にはSD 2000や道路跡と同様に、頭骨以外の部位もかなり存在していたものと思われる。なお、上・下顎歯については、遊離歯よりも頭骨に植立した状態のものが多く、中には上顎骨と下顎骨が関節した状態で検出された頭骨の一括資料も認められた。

骨の残存状況 頭蓋骨と下顎骨については、保存状況の良い骨の数が少ないが、解体痕や意図的な打割痕などの人為的な痕跡を確認できたものはなく、積極的に脳髓等の摘出は行われていなかったものと思われる。一方、四肢骨については細かな刃傷や鉞状の切痕などの解体の際に付いたとみられる痕跡が認められた。肩甲骨（9割以上）では肩甲切痕部分、上腕骨（5割以上）では骨幹の前後、橈・尺骨（約3割）では近位端周辺、脛骨（約4割）では骨幹の前面に顕著に認められた。ただし、ニホンジカやウシ、イノシシにみられたような金属器による切断痕や削り痕、意図的な打割痕などの、解体後の骨に二次的な利用がなされたことを示すような痕跡は認められなかった。なお、脛骨の近位端周辺にイヌが噛んだとみられる痕跡を残すものが数例認められた。いずれも完存に近い状態の骨であるが、このうちの1例についてはSD 2000から出土し、脛骨から末節骨まで接続した状態にある。これらの骨には人為的な痕跡は認められないことから、解体されることなく遺棄された可能性も考えられる。

大きさ ウマの大きさについては、林田・山内 1957の推定式を用いて、下顎骨および四肢骨の骨長から体



※1 体高推定は、林田・山内 (1957) に基づいて行った。
 ※2 比較資料は、西中川他 (1991) による。

第202図 ウマの推定体高分布図

高(肩甲骨の最高点の高さ)を推定した。下顎骨 2例、四肢骨 25例で体高の推定が可能であった。これによると体高分布は 108~140cmの範囲で、124~136cmに集中する傾向が認められた。小型馬~中型馬に属し、中型馬でも現存の御崎馬クラスの大きさのものが主体をなしており、概ね古代都城や中世遺跡出土のものと同程度の大きさであったと思われる(第 202 図)。

年齢 歯の萌出・交換および咬耗状況によって年齢の推定が可能な上顎骨 11点、下顎骨 37点についてみると、前臼歯が乳歯 m 2~4 で、第 3 後臼歯 M 3 が未萌出段階(3 5歳未満)のものが 9例、前臼歯の交換が終了し、第 3 後臼歯が萌出直後の段階(4歳前後)のものが 9例、第 3 後臼歯の咬耗がやや進み、切歯(1~3)咬合面の黒窩が消失前の段階(上顎 4 5~9歳、下顎 4 5~6歳)のものが 6例みられた(第 60・61 表)。この他、切歯が残存しない永久歯列完成後 4歳以上の個体 24点については、詳細な年齢推定を行っていないが、概してエナメル質の咬耗があまり進んでいない比較的若い個体が多い印象を受ける。ただし、臼歯の咬耗がかなり進んで、歯冠高が低くなっている個体や、遊離切歯の中に咬合面が円形および三角形状を呈するものも認められるなど、10歳を超えるような老齢個体も一定量含まれていたものと思われる。一方、四肢骨の骨化の状況を見てみると、脛骨および中足骨の遠位端が未癒合の個体(2歳未満)が 1例みられたが、これ以外はすべて骨化が終了している。全体として 3 5歳未満の個体は少なかったものと思われる。

ヒト

S D 2000 河川跡および S X 10 東西大路、S X 20 西 2 道路から頭蓋骨、上腕骨、大腿骨、脛骨など 19 点出土した。埋葬状態にあるものはなく、ほとんどのものが単独で検出された。しかも残存状況の悪いものが多く、全体的な特徴の分かるものは少なかった。ただし、四肢骨の中には、骨幹の破損部分にイヌが噛んだとみられる痕跡を残すものが数例認められた。遺跡近くに葬られたか、遺棄された死骸が、イヌの餌食となったのであろう。ウマと同様、遺体の処理が充分でなかったことを示唆している。

なお、出土した人骨の形態学的な分析については、東北大学医学部解剖学第 1 講座の百々幸雄氏、近藤修氏にお願いした。『山王遺跡』を参照されたい。

(3) 小結

以上のように、今回の多賀前地区の調査では、本遺跡の東端を流れる砂押川の旧河道(S D 2000 河川跡)や道路跡を中心に、ウマ・ウシ・イヌといった家畜獣やニホンジカ・イノシシといった野生獣などの奈良時代後半から平安時代前半にかけての良好な資料が得られた。これにより、これまで空白であった時期における動物の形質や系統などの種としての特徴や動物利用のあり方などを知る上で貴重な資料を提供したと言える。とくに S D 2000(8世紀後半代~10世紀中頃)からは、家畜獣や狩猟獣に関わりなく、また年代的にも遍在することなく、解体後の骨が多量に出土しており、先に述べた骨角製品の製作を含め、動物に関わる生産活動の一端が明らかになった。以下、各種動物の特徴をまとめてみる。

イヌは、体高が 40~49cm 程(平均 44.4cm)で、縄文犬や弥生犬より大きく、中世犬と同程度の中

型犬が主体をなしている。頭蓋骨および下顎骨の形態については、縄文犬的な特徴をもつものや弥生犬的な特徴をもつもの、これらとは異なる別タイプのものなど複数の形質が認められた。縄文犬が一系統のみからなり、形態的に均質であること(茂原:1991)とは対照的である。本遺跡におけるイヌのあり方については、全体に大型化していることを考えれば、在来縄文犬と大陸系の犬との混血によって形成されたものである可能性が高く、しかも形態的なバラエティーからみて複数の大陸系統の犬の影響を受けている可能性が考えられる。ところで、本遺跡八幡地区からは、体高約46cm(橈・尺骨からの推定)の古墳時代中期のイヌが出土している(菅原・吾妻:1994)。今回出土したイヌと比較しても大きい類に属するもので、5世紀代にはすでに大型化していたことを示している。1例のみの出土であるが、今回出土したイヌの系統を考える上でも興味深い資料である。

ニホンジカとイノシシは、縄文時代以来の狩猟獣で、その利用は肉から骨・角、髄にまでおよんでいる。出土状況としては散在的であり、四肢骨のほとんどのものに解体や削り、打割などの人為的な痕跡が認められた。とくに、ニホンジカについては落角も遺跡内に運び込まれており、骨角製品の素材としての利用価値が高かったものと思われる。年齢的には3歳未満の幼若獣が多く、壮齢の成獣や老獣は少ない傾向にある。一方、イノシシについては、3歳未満の幼若獣は捕獲の対象となっていなかった可能性が高い。

ウシは、体高が115~125cm程の口之島牛や見島牛の雌クラスの大きさのもので、年齢的には幼若獣はほとんど含まれず、全体的に老齢の個体が多い傾向にある。出土状況や骨の残存状況についてはニホンジカやイノシシと共通する点が多く、肉から骨・角、髄にいたるまで利用されていたことが窺える。とりわけ、四肢骨にみられた規格的な素材を量産するような加工法は、中世における専門的な骨角細工職人の手法と共通するもので、骨角製品の製作に関わる工人の存在が想定されるとともに、周辺にこうした工房が存在した可能性も考えられる。ところで、古代のウシについては、官衙やその周辺での出土が多く、一般集落からの出土は非常に少ない傾向にある。ただし、居住域と生産域とが明らかになった藤田新田遺跡からはウシの骨が出土し、また仙台市泉崎浦遺跡(吉岡・篠原:1989)や富沢遺跡(工藤・太田:1989)では水田跡からウシの足跡が検出されるなど、一般集落にも農耕用としてウシが普及していた可能性が考えられる。本遺跡でも、耕作域となる南3区の小河川跡S D 3625底面からウシとみられる足跡が検出されており、出土したウシの中には農耕に利用されていた個体も含まれているものと思われる。

ウマは、今回出土した動物遺体の中で最も多く、少なくとも200個体以上は存在したことが明らかになった。大きさは体高平均127.3cm程で、124~136cm程の御崎馬クラスの中型馬が主体をなしているが、体高108cm程のトカラ馬クラスの小型馬や140cmを越えるような中型馬でも木曾馬クラスのものなど大小のバラエティーが認められた。年齢的には4歳以上でも比較的若い個体が多い傾向にある。四肢骨には皮や肉を剥ぎ取る際についた痕跡を残すものが多いが、解体後はそのまま河川跡や道路側溝などに廃棄されている。保存状況が悪く確認できたものは少ないが、脳を摘出したような痕跡は認められなかった。古代のウマについては、官衙やその周辺からの出土が多くみられるものの、一般的にはさほど普及していなかったものと考えられており、本遺跡における出土のあり方は陸奥国府多賀

城との密接な関わりを反映したものである。ところで、多賀城跡からは私馬に関する漆紙文書が出土し(後藤・古川:1990)、公的な馬以外にも所有者の把握を必要とする程多くの馬が存在したことが明らかになっている。出土したウマの性格については、おびたしい出土量や大きさにばらつきが認められること、比較的若齢の個体を中心に正規分布を示すような年齢構成、解体後の骨の扱いなどから、「養老殿牧令」にみられるような斃れた官馬のみを適宜処理したものとは考え難い。私馬を含め、斃馬のみならず、肉や皮革などを目的とした飼養馬を組織的に処理したことを示している可能性が高いと思われる。平城京や平安京では皮革生産などを目的とした大規模な斃牛馬処理工房の存在 松井:1995b が明らかになっているが、今回の調査区周辺にもそうした工房や解体の場が存在していた可能性が考えられる。なお、河川跡からはイヌやウシ、ニホンジカも比較的まとまった出土状況にあるが、これらについてもウマと同様に持ち込まれ解体処理された可能性が考えられる。

ところで、遺跡出土の牛馬骨、とくに頭骨をめぐっては、文献史的な解釈や民俗事例の存在などから、動物祭祀の事象として報告される例が多くみられる。ただし、これらの中には、単に井戸跡、土壌、溝跡などから骨や歯が出土しただけのものや、比較的残存しやすい歯のみをもって頭骨のみが埋納されたとする解釈も少なくなく、出土状態や残存部位、骨に残された痕跡などを含めて、考古学的に証明された例はきわめて少ない。考古学的に論証した松井章氏によれば、これまでに出土した牛馬骨の大部分は、祭祀に伴う動物犠牲とするよりも、斃牛馬処理の結果生じた残滓と考えた方が合理的であるという(松井:1997, 1995a)。本遺跡についても、前述のとおり、遺構に伴って埋納されたとみられる牛馬骨の事例はなく、道路側溝や河川跡、井戸跡、土壌、溝跡、柱穴などから他の獣骨とともに散在的に出土している。しかも、残存状況の良好な道路側溝や河川跡出土の牛馬骨をみみると、頻度に違いはあるものの、特定の部位に偏ることなく存在し、骨には解体および骨髄の抽出、二次加工の痕跡が認められるなど、食料や皮革・骨角素材などに利用された後の状況を示している。出土状況や骨のあり方を見る限り、土器をはじめとする他のゴミと一緒に捨てられた残滓にほかならない。こうした状況は区画内の遺構出土の牛馬骨についても同様であり、多賀城の政庁前面に位置する「鴻ノ池」地区でのあり方 富岡:1992とも共通する。すなわち、多賀城およびその周辺においては、牛馬が諸々の使役のみならず、他の動物と同様に食料や皮革・骨角製品の素材などとしても利用価値が高かったものとみられるが、祭祀としての「殺牛・殺馬」については、出土骨をみる限り否定的な状況にある。なお、考古学的に論証された「動物祭祀」の中には、動物犠牲を形骸化した結果として、あらかじめ準備された特定の部位の骨を使う儀礼の存在が指摘されている 松井:1995a。今回出土した残存状況の悪い牛馬骨(例えばエナメル質部分からなる遊離歯)の中には、そうした可能性を否定できない資料もあるが、本遺跡の場合、牛馬や狩猟獣などの解体・投棄が繰り返される傍らで、解体等の痕跡が不明な残存状況の悪い資料に限って、例えば牛馬の歯のみが祭祀のシンボルとして使われたとは考え難い。今回の資料のみをもって「殺牛馬信仰」の存在をすべて否定することはできないが、これまでに多賀城およびその周辺で検出された大量の牛馬骨の中にはそうした痕跡は認められず、祭祀としての「殺生・殺馬」の存在を考古学的に論じることはできない状況にある。

(註1)ニホンジカの四肢骨による年齢判定については、比較的近縁種であるヒツジの化石化終了年齢をもとに推定し

た。

謝辞 骨角製品の素材および動物遺体の同定にあたっては、早稲田大学金子浩昌氏、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏、奈良国立文化財研究所松井章氏、京都大学霊長類研究所茂原信生氏に御教示頂いた。

引用・参考文献

- 小野寺覚・茂原信生・江藤盛治 1987「骨格による性の判別・シバイヌについて」『解剖学雑誌』第62巻第 7号
- 加藤嘉太郎 1974『家畜の解剖と生理』養賢堂
- 工藤哲司・太田昭夫 1988「富沢遺跡 - 第24次富沢中学校地区発掘調査報告書 - 」『仙台市文化財調査報告書』第113集 仙台市教育委員会
- 久保田勉 1932『馬学 外貌編』日本競馬会弘済会
- 小池裕子・大泰司紀之 1984「遺跡出土ニホンジカの年齢構成からみた狩猟圧の時代変化」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』
- 後藤秀一・古川淳一 1990「多賀城跡第56次調査」『宮城県多賀城跡調査研究所年報』1989 宮城県多賀城跡調査研究所
- 斎藤弘吉 1963『犬科動物骨格計測法』
- 桜井秀雄 1992「井戸から出土する牛馬遺存体について - 動物犠牲との関係 - 」『考古学研究』39 2
- 茂原信生 1987「東京大学総合研究資料館所蔵長谷部吉人博士収集犬科動物資料カタログ」『東京大学総合研究資料館標本資料報告』第13号
- 茂原信生 1991「日本犬に見られる時代的形態変化」『国立歴史民俗博物館研究報告』第29集 共同研究「動物考古学の基礎的研究」
- 菅原弘樹・吾妻俊典 1994「山王遺跡」『宮城県文化財調査報告書』第16集 宮城県教育委員会
- 土肥 孝 1983「日本古代における犠牲馬」『原良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 文化財論叢』
- 富岡直人 1992「多賀城跡第60・61次調査出土のト骨・骨角器と脊椎動物遺体」『多賀城跡 - 宮城県多賀城跡調査研究所年報』1991 宮城県多賀城跡調査研究所
- Driesch A 1976 A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites Peabody Museum Bulletin
- 西中川駿他 1991「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」鹿児島大学農学部獣医学科
- 西本豊弘 1994「朝日遺跡出土のイヌと動物遺体のまとめ」『朝日遺跡』愛知県埋蔵文化財センター
- 西本豊弘 1994「イヌと日本人」『考古学は楽しい』日本経済新聞社
- 林田重幸・山内忠平 1958「馬における骨長より体高の推定法」『鹿大農学術報告』6
- 松井 章 1986「亀井遺跡（切り広げ部）出土の動物遺存体」『亀井（その2）』大阪府埋蔵文化財調査センター
- 松井 章 1995a「古代・中世の村落における動物祭祀」『国立歴史民俗博物館研究報告』第6集
- 松井 章 1995b「生業と環境」『展望考古学』考古学研究会40周年記念論集
- 松井 章・茂原信生 1995「草戸千軒町遺跡出土の中世犬骨」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告 - 南部地域北半部の調査 - 』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 山内忠平 1985「犬における骨長より体高の推定法」『鹿大農学術報告』7
- 吉岡恭平・篠原信彦 1989「富沢遺跡・泉崎浦遺跡 - 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書 - 」『仙台市文化財調査報告書』第12集

道路/区画	遺構	有 骨	上肢部 骨	下肢部 骨	腕骨	手骨	足骨	中足部 骨	跗骨	中足部 骨	趾骨	その他	個 体 数																		
		左:右	左:右	左:右	左:右	左:右	左:右	左:右	左:右	左:右	左:右	左:右																			
北1・西3区画 大南・西3区画	遺構B・中	1																													
	遺構B・中	1																													
	遺構C・中	1																													
	遺構D	1																													
	遺構E	1																													
	遺構F	1																													
	遺構G	1																													
	遺構H	1																													
	遺構I	1																													
	遺構J	1																													
	遺構K	1																													
	遺構L	1																													
南1・西1区画	遺構M	1																													
	遺構N	1																													
	遺構O	1																													
	遺構P	1																													
	遺構Q	1																													
	遺構R	1																													
南2・西0区画 北1・西3区画	遺構S	1																													
	遺構T	1																													
	遺構U	1																													
	遺構V	1																													
	遺構W	1																													
	遺構X	1																													
	遺構Y	1																													
	遺構Z	1																													
	遺構AA	1																													
	遺構AB	1																													
	遺構AC	1																													
南1西2区	遺構AD	1																													
	遺構AE	1																													
	遺構AF	1																													
	遺構AG	1																													
	遺構AH	1																													
	遺構AI	1																													
	遺構AJ	1																													
	遺構AK	1																													
	遺構AL	1																													
	遺構AM	1																													
	遺構AN	1																													
	遺構AO	1																													
	遺構AP	1																													
	遺構AQ	1																													
	遺構AR	1																													
南2西1区	遺構AS	1																													
	遺構AT	1																													
	遺構AU	1																													
	遺構AV	1																													
	遺構AW	1																													
	遺構AX	1																													
	遺構AY	1																													
	遺構AZ	1																													
	遺構BA	1																													
	遺構BB	1																													
	遺構BC	1																													
	遺構BD	1																													
南3区	遺構BE	1																													
	遺構BF	1																													
	遺構BG	1																													
	遺構BH	1																													
	遺構BI	1																													
	遺構BJ	1																													
	遺構BK	1																													
	遺構BL	1																													
	遺構BM	1																													
	遺構BN	1																													
	遺構BO	1																													
	遺構BP	1																													
計		13	1	0	2	4	0	2	3	8	0	1	4	2	1	3	0	2	0	4	5	1	1	5	3	1	0	4	2	2	52

第53表 ニホンジカの遺構別・部位別出土状況

No	遺構	遺構の積出と収斂状況											遺留跡の出現			想定年齢
		i1	i2	i3	m2	m3	m4	M1	M2	M3	否	期	否	期		
		L	C	P2	P3	P4	M1	M2	M3							
87	SD2000 3層	x	x	x	x	m2	m3	m4	M1	M2	M3	-	-	-	-	1~1.5歳
1977	SD2000 4層	x	x	x	x	x	m3	m4	M1	M2	-	-	-	-	1~1.5歳	
614	SD2000 19層	x	x	x	x	x	x	x	M1	M2	M3	+	+	-	-	4.5歳
2719	SD2000 層不明	x	x	x	x	x	x	m4	M1	M2	-	-	-	-	1~2歳	
1961	SK1250	x	x	x	x	x	x	x	M1	M3	?	?	?	?	±	10歳前後
1036	SD1020A	x	x	x	x	m2	m3	m4	M1	M2	-	-	-	-	1~1.5歳	

- *1) x: 破損および脱着痕。 - : 未調査
*2) #: 積出遺次。 b: 積出直後。 c: エナメル質の収斂開始

ニホンジカの下顎骨の積出・交換および収斂状況

計測項目	計測法	No.87		No.1977		No.614		No.2719		No.1961		No.1036	
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R		
		SD0006 3層	SD0009 4層	SD0009 10層	SD0000 層不明	SD0000 10層	SD0000 10層	SD0000 10層	SK1250	SD1020A			
下顎全長1	Goc-Ia												
下顎全長2	Cn-Ia												
下顎枝長1	Gov-Cr	102.6											
下顎枝長2	Gov-Cr	77.5	75.5										
臼歯列全長・上	PP-M3												
臼歯列全長・下	PP-M3												
後臼歯全長	M1-M3	43.7	43.8					42.2		44.15			
前臼歯全長	PP-Pe												
下顎体長1	HM3												
下顎体長2	HM1	24.6						29.7		25.6			
下顎体長3	HP2	20						21.6					
下顎体厚1	TM3												
下顎体厚2	TP1	14.4	13.6					15.7		15.7			
下顎体厚3	TP2	8.6	8.2					9.9		9.7			
第1前臼歯	P1									8.3			
	B									4.4			
	H									-			
第3前臼歯	P3									11.9			
	B	12.1						6.8		6.8			
	H	7.2											
第4前臼歯	P4									19.4			
	B	19.7								9.4			
	H	9.3											
第1後臼歯	M1									16.4			
	L	32	16.6	16.5				16.4					
	B	8.5	10.7	6.4				8.2					
	H	20.8	19	20.8				20.2					
第2後臼歯	M2									8.7			
	L	9.2	11.3	8.3									
	B	23.4						23.9					
	H							11.1					
第3後臼歯	M3												
	L							19.4		11.1			

*3) L: 歯冠長。 B: 歯冠幅。 H: 歯冠高

ニホンジカ下顎骨計測値

計測項目	No.596		No.1206		No.829	
	L	R	L	R	L	R
	SD0008 4層	SD0009 9層	SD0009 9層	SD0009 9層	N3 10層	N3 10層
上顎骨	GL					
	Bp	41	41	47.6		
	Dp	38.8		44.7		

計測項目	No.223		No.381		No.448	
	L	R	L	R	L	R
	SD0000 4層	SD0000 10層	SD0000 10層	SD0000 10層	SD0000 10層	SD0000 10層
尺骨	GL					
	SDO	31	37.3			
	DPA	35.9	40			
	BPc	30.4	24.7	20.5		

計測項目	No.614		No.2	
	L	R	L	R
	SD0009 2層	SD0006 10層	SD0009 10層	SD0006 10層
中手骨	GL			
	Bp	207.8		
	Dp	20	29.5	
	Dp	21.4		
	Bd	29.4		
	Dd	21.1		

計測項目	No.0		No.214	
	L	R	L	R
	SD0000 10層	SD0006 10層	SD0000 10層	SD0006 10層
尺骨	GL			
	Bp	39	36.6	
	Dp	21.9	21.8	
	Bd			
	Dd			

計測項目	No.1236		No.2		No.6	
	L	R	L	R	L	R
	SD0000 9層	SD0009 10層	SD0009 10層	SD0000 10層	SD0000 10層	SD0000 10層
尺骨	GL					
	Bp					
	Dp	54.6				
	Bd	49.4	39.8			
	Dd	31.2	32.5			

計測項目	No.1988		No.267		No.2364		No.387		No.399		No.614		No.413		No.1871		No.1977		No.1960		No.477		
	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	
	SD0000 4層	SD0000 8層	SD0000 8・10層	SD0000 9層	SD0000 9層	SD0000 10層	SD0009 10層																
中足骨	GL																						
	Bp																						36.1
	Dp																						27.7
	Bd																						
	Dd																						
脛骨	GL	30.8						94.1															
	GB	30.7																					
前骨	GLJ		(41.1)	41.3				41.2	45.1	43.8	36.9	40.5	44.1										
	Bd			25.2				27.4	27.4	25.3	24.4	(22.0)	27										

ニホンジカ四肢骨の計測値

- *4) GL: 骨長。 Bp: 近位端幅。 Bd: 遠位端幅。 Dp: 遠位端厚。
Dd: 遠位端厚。 SDO: 肘窩前小骨。 DPA: 肘窩後小骨。
BPc: 中手骨切痕最大幅。 GB: 最大幅
*5) 計測方法同。 Ditch A (1970) に従った。

第54表 ニホンジカの計測値一覧

遺跡・区分	遺構	調査 年度	上腕骨 左:右	下腕骨 左:右	脛骨 左:右	尺骨 左:右	中手骨 左:右	大指骨 左:右	指骨 左:右	足骨 左:右	基骨 左:右	中足骨 左:右	跗骨 左:右	趾骨 左:右	その他	種別 数
大跡・西2遺跡	御蔵C		下脛骨(R1)	1
	御蔵F		上脛骨M1(L1)	1
南1・西1遺跡	御蔵2		下脛骨C(R1)	1
	御蔵2・F		脛骨(L)	1
北1南3区	SE382			1
	SK503			1
	SK579			1
南1西2区	SD1230・1240		脛骨(L)	1
	SD2000 9層			1
南2西1区	SD2000 9層			1
	SD2000 10層			1
南3区	SD2000 11層			1
	計		0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0

第55表 イノシシの遺構別・部位別出土状況

計測項目	計測点	No2007 SD2000 4層
縦断面最大長	A-P	
縦断面最大長	CO-P	
縦断面最大長	B-P	
縦断面最大長	N-A	218.2
縦断面最大長	B-H	
白粉列全長	P2-M3	
白粉列全長	P2-P4	
白粉列全長	M1-M3	87.5
縦断面	A-SP	151.6
縦断面	Ent-Ect	67.5
縦断面	O-Ect	61.3
縦断面	Ent-Ect	176.2
縦断面	Zy-Zy	200.3
縦断面	Ect-Ect	225.2
縦断面	Ent-Ent	168.9
縦断面	Or-Or	(22.2)
縦断面		
縦断面	B-B	151.4
縦断面	A-B	15.03
縦断面	O-B	41.6
上階部 P4(L/B)		19.1/17.4
M1(L/B)		28.3/19.0
M2(L/B)		32.5/22.0
M3(L/B)		31.4/19.7

ワシ縦断面の計測値

No	建構	階											指定年数	備考	
		i1	i2	i3	m2	m3	mt	P1	M1	M2	M3				
上階	2007	SD0000												2.5歳～	
下階	1955	SD0000	x	x	x	m2	m3	x	M1	M2	M3			1.5～2.5歳	
	1975	SD0000	x	x	x	P2	P3	P4	x	x	x			(巻掛)	P2, P3, P4 両側 (P4 巻掛側)
	1974	SD0000	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3			3歳～	
	1976	SD2000	x	x	x	x	x	x	x	x	M3			2.5歳～	
	2037	SD2000	x	x	x	P2	P3	P4	x	x	M3			3歳～	M1, M2 両側
	347	SD2000	x	x	x	x	x	x	M2	M3				2.5歳～	
	143	SD0000	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3			3歳～	
	2268	SD0000	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3			3歳～	
	738	SX20E	x	x	x	x	x	x	M2	M3				3歳～	(巻掛)
	737		x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3				
	1107	SX1250D	x	x	x	x	x	x	M1	M2	M3			3歳～	
	1108	SX1250D	x	x	x	m3	mt	x	M2	M3				2～2.5歳	
	1808	SX1300D	x	x	x	x	x	x	M1	M2	M3			2.5歳～	(巻掛)
	1913	SX3461A	x	x	x	x	x	P4	x	x	M3			3歳～	
	2420	SK410	x	x	x	x	x	P3	P4	x	M2	M3		(巻掛)	
	1714	SK3064	x	x	x	x	x	P4	M1	M2	M3			2.5～3歳	

※1) x: 巻掛および見出し、-: 未測定
 ※2) a: 巻出連続、b: 巻出直後、c: エナメル巻の巻掛側

ワシの上階・下階部の構造・交換および取付状況

計測項目	計測点	No.1975	No.1955	No.1974	No.1976	No.2037	No.143	No.2268	No.737	No.738	No.1107	No.1108	No.1913	No.2420
		R	R	L	L	L	R	R	R	L	L	R	L	R
下階部全長1	Ge-Id	2層	3層	4層	4層	4層	8層	10層	SX30	SX30	SX1250	SX1250	SX3461A	SK410
下階部全長2	Co-Id													
下階部全長3	Ge-Co													
白粉列全長・上	P2-M3							147.6	137.4	138.3				
白粉列全長・下	P2-M3			157.6		147.1		160	146.2	136.1			144.1	149.2
白粉列全長	M1-M3			100.5		101.5		91.5	86.2	90.2			89.6	85.3
白粉列全長	P2-P4	58.7	67.4	55.6		88.2		52.8	48.4					57.2
下階部全長1	HM3	61.3		74.6	64.5	74	74.9	67.8					75.6	70
下階部全長2	HM4	49.2	52.8	59.2	60.3	56.7		52.9	56.7				55.2	51.1
下階部全長3	HP2	39.5	34.8	39		41.4		40	46				42.6	41.5
下階部全長4	TM3	24.6		27.3	29.5	25	25.7	26.2		28.4			25.3	29.2
下階部全長5	TM1	26.7	27.7	25.1	31.2	24.6	28	25.5	24.9	28			24.3	25.8
下階部全長6	TP2	19.3	16.6	18.5		18.4	20.4	19.5	20.8				16.4	16
第2白粉列 P2	L	11.1				7.4	9.5	8.9	7.7					
B		9				7	9.2	7.4	7.4					
H		-				14.1	-	-	-					
第3白粉列 P3	L	19.2	21.2	20.4		19.7	21.2	19.7	18.3					18.9
B		12	9.4	10.8		9.8	13.3	10.2	11.2					12.1
H		19.8		31		21.7	23.4	20.4	19.2					22
第4白粉列 P4	L	11.6		11.9		14.3	15.2	11.8	12.4					12.5
B		21.9	27.5			25.6	22.5	23.1		23.5				13.6
H		13.6	15.3			14.4	14	16.4		15.7				
第1白粉列 M1	L	33.3	30.8			29	28.3	25	25.1	27.5	27.7			25.7
B		13	14.4			14.5	15.4	16.9	18	16	16.2			16.6
H		35.5	39.1	39.9	41.8	41.3	39.2	37.1	38.8	40	39.1	40.2	39.3	39.3
第3白粉列 M3	L			11	14	14.8	15.3	13.4	14.5	15.6	16	14.6	15.4	14.4
B														15.7

※3) L: 巻掛長、B: 巻掛幅、H: 巻掛高

ワシ下階部の計測値

計測項目	No1935		No2035	
	R	L	R	L
尺帝 GL	54.3	55.6	54.3	55.6
SDO	54.3	55.6	54.3	55.6
DPA	64.1	70.3	64.1	70.3
BPC	44	48.4	44	48.4

計測項目	No2142		No1933		No1999		No2025	
	L	R	L	R	L	R	L	R
幅帝 GL	79.4	90.8	79.4	90.8	79.4	90.8	79.4	90.8
Bp	79.4	90.8	79.4	90.8	79.4	90.8	79.4	90.8
Dp	47.8	46.4	47.8	46.4	47.8	46.4	47.8	46.4
Bd	80.2	66.8	80.2	66.8	80.2	66.8	80.2	66.8
Dd	51.2	46	51.2	46	51.2	46	51.2	46

計測項目	No2160	
	R	L
幅帝 GL	65.5	70.6
Bp	65.5	70.6
Dp	65.5	70.6
Bd	65.5	70.6
Dd	65.5	70.6

計測項目	No216	
	R	L
幅帝 LA	70.6	70.6
Bp	70.6	70.6
Dp	70.6	70.6
Bd	70.6	70.6
Dd	70.6	70.6

※4) GL: 巻掛長、Bp: 巻掛幅、Dp: 巻掛高、Bd: 巻掛幅、Dd: 巻掛高
 ※5) 計測方法、DPA: 計測幅小径、DPA: 計測幅大径、LA: 幅帝長

第59表 ワシの計測値一覧

No	通称名	II	II	II	m2	m3	m4	指定年齢	No	通称名	II	II	II	m2	m3	m4	指定年齢							
		II	II	II	C	P2	P3	P4	M1	M2	M3													
1941	SD2000 3層	x	x	x	x	m2	m3	m4	x	x	x	1480	SX4013	x	x	x	x	3歳~ (1層)						
2038	SD2000 L 4層	x	x	x	x	x	x	x	M1	M2	M3	1566	SX1350D	II	II	II	x	4.5~9歳 6?						
		x	x	x	x	P3	P4	M1	x	x				II	II	x	P2	P3	P4	M1	x	x		
						c	c	c	c	c								c	c	c	c	c	c	
2181	SD2000 L 11層	x	x	x	x	P2	P3	m4	x	x	x	1747	SX1350C	x	x	x	x	x	P4	M1	x	x	4.5~9歳 ?	
						c	c																	
		x	x	x	x	m3	m4	M1	M2	x				II	II	II	x	P2	P3					
						c	c	c	c															
2249	SD2000 L 11層	x	x	x	x	x	x	x	M1	x	x	1259	SK321	II	II	II	-	P2	P3	P4	M1	M2	M3	4.5~9歳 ?
									c															
		x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3			II	II	II	-	P2	P3	P4	M1	M2	M3	
						c	c	c	c	c	b													
2397	SD2000 L 11層	x	x	x	x	m3	m4	M1	M2	-	1631	SX3002	x	x	x	x	P2	P3	b	x	x	x	x	3~9歳
						c	b																	
1044	SX4012 R 4層	x	x	x	x	x	x	x	M1	M2	x													
									c	c														
		x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	x														
						c	c	c	c															

*1) ×: 破損および製造済、-: 未製造
 *2) 付の欄(II)~(III)は、a: 交換済、b: 廃棄済
 *3) 付の欄(II)は、a: 製造済、b: 廃棄済、c: エキストラ質の取付箇所

ワマの上巻歯の構造・交換および較正状況

計測項目	No.1941	No.2038	No.2181	No.2181	No.2181	No.1494	No.1498	No.1747	No.1966	No.1979	No.1831			
	L	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R			
上巻歯 P1	-			22.4	-	33.2		26.4		37.1	37.7	38	37.2	-
B	-			23.5	-	22.7		23.6		34.3		25.1	25.7	-
H	-			30	-	26.6		28.2		26.3	41.4	43.3	-	-
P3		27.6	-	26.4	-	25.6	-	28.8	-	24.6	29	28.1	26.6	
L	-	29.8	-	25	-	24.7	-	25.7	26.5	-	24.7	26.7	26.8	25.6
P4		24.6	-	26	-	26.2	-	-	29		27.6	27.9	28.3	
B	-	27.6	-	25.4	-	25.1	-	-	-		25.3	25.9	25.2	
M1	L	24.6	24.3	27.6	28.8	24.1	23.3	25.6	-	-	28.8	25	24.8	
B	-	26.7	24.3	24	-	24.2	-	-	25.6		25.7	25.8	25.1	
M2	L	27.4	26.8	26.8	26.8	23.8	-	-	-		23.1	25.4	24.8	
B	-	21.7	21.4	21.4	22.9	24	-	-	-		25.8	24.2	24.8	
M3	L	27.8	-	-	26.6	-	-	-	-		25.4	24.8	24.8	
B	-	22.6	-	-	21.2	-	-	-	-		26.5	26.2	26.2	

*1) P1: 第2歯白歯、P3: 第3歯白歯、P4: 第4歯白歯、M1: 第1歯白歯、M2: 第2歯白歯、M3: 第3歯白歯
 *2) L: 歯冠長、B: 歯冠幅、H: 歯冠高

ワマ上巻歯の計測値

No	2154	1997	1122	224	552	564	2118	2121	2363	2201	1693	1447	1453	2467	2443	496	907	1209	1191
	L	L	L	R	R	L	R	L	R	L	L	L	L	R	L	R	L	R	L
P1	26.5	34.4	25.4	26.2	26.6	27.2	26.6	34.4	24.1	34.2	-	26.7	-	28.8	26.6	25	26.8	26.9	33.9
B	21.4	24	23.2	25.5	23.9	26.4	26.7	23.5	24	21.6	-	25	-	28.4	22.2	-	25.8	26.2	24.7
H	31	31.7	22.1	32.4	26.4	34.1	-	31.8	43.4	-	42	41.9	54	46.7	15.3	47.6	35.1	-	-
No	1401	2263	806	2228	852	852	1746	2412	1071	2228	1635	647	2569						
	R	L	L	R	L	R	R	L	L	L	L	L	L						
	SX10	SX20	SX30	SX30	SX20	SX10	SX10	SX10	SX20	SX10	SX10	SX10	SX10	SX10	SX20	SX20	SX20	SX10	SX10
P2	-	27.6	26.1	26.4	26.1	-	27.4	26.6	26.2	26.7	26.4	26.6	24.9						
B	-	28.3	25.2	22.7	26.5	25.7	-	21.3	24	26.4	24.4	25.2	24.2						
H	42.1	-	26	23.9	21.6	-	28.3	15.5	20.1	49	48.7	26.1	47						

ワマの上巻歯2前白歯 (P2) の計測値

No	19	227	1954	618	467	2021	1153	2268	2697	946	1363	1259	1278	1204	879	773	2426	2408	637
	R	R	R	R	R	R	R	R	R	L	L	L	L	L	L	L	L	L	L
M3	L	26.9	25.1	26.4	22.8	23.9	24.7	23.5	25.1	24.5	25.7	25.6	27.9	28.4	24.9	26.1	29.6	28.4	24.7
B	22.3	28.2	26.7	18.7	21.4	20.2	26.6	21.6	21.3	20.7	20.9	22.1	22.7	19.7	26.5	23.4	19.7	22	22

ワマの上巻歯3前白歯(M3)の計測値

ワマの上巻歯2前白歯 (P2) の計測値

L: 歯冠長、B: 歯冠幅、H: 歯冠高を示す。

ワマ逆上巻歯の計測値

第60表 ワマの計測値一覧 (1)

No	道標名	11	12	13	C	m2	m3	m4	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	規定年齢	No	道標名	11	12	13	C	m2	m3	m4	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	規定年齢
1938	SD0000 R 3層	x	x	x	x	x	x	x	P4	M1	M2	M3				4歳~	1968	SD0000 L 12層	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3		15+歳			
372	SD0000 R 6層	x	x	x	x	P2	x	x	x	x	x					2.5歳~ (巻物)	204	SD0000 R 層不明	x	x	x	x	P2	x	x	x	x	x	x		2.5歳~		
345	SD0000 R 4層	x	x	x	x	P1	P3	P4	M1	M2	M3					4歳~	200	SD0000 R 層不明	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	x				4歳~		
346	SD0000 L 4層	x	x	x	x	P1	x	x	x	x						2.5歳~	10	SX107 L	x	x	x	x	P2	P3	m4	M1	M2				2.5~3.5歳		
351	SD0000 R 7層	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3						4歳~	739	R	x	x	x	x	x	x	x	M1	M2						
346	SD0000 L 4層	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	x						3.5+歳	1010	SX100 L	x	x	x	x	P2	P3	x	x	x	x			4歳~		
1094	SD0000 L 9層	x	x	x	7	x	P3	P4	M1	M2	M3					4歳	1303	SX10 L	11	12	13	C	P2	P3	P4	M1	M2	M3			3.5~4.5歳		
1995	R	x	x	x	7	x	P3	P4	M1	M2	M3						2019	SX10H R	x	x	x	x	x	x	x	M1	M2	M3			4歳~		
236	SD0000 R 8・10層	x	x	x	x	P2	x	x	x	x	x					2.5歳~	1213	SX10・20C L	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	x				4歳~ (巻物)		
2347	SD0000 R 9層	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3					4歳~	1264	SX10・20C L	x	x	x	x	x	x	P4	M1	M2	M3			4歳~		
1059	SD0000 L 10層	x	x	x	x	P1	m3	m4	M1	M2	-					1.5~2.5歳	735	R	x	x	x	x	P1	P3	P4	M1	x				3.5歳		
421	SD0000 R 10層	x	x	x	x	P1	P3	P4	M1	M2	M3					4歳~	1058	SX130D L	11	12	x	x	P1	P3	P4	M1	M2	M3			4.5~6歳		
1945	SD0000 R 10層	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3						4歳~ (巻物)	10	R	11	x	13	x	x	x	x	x	x						
1947	SD0000 R 10層	x	x	x	x	m3	m4	M1	M2	-						1.5~2.5歳	1065	SX130F R	x	x	x	x	x	P4	M1	M2	-				2~2.5歳		
2137	SD0000 R 10層	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3					3.5+歳	1715	SK3107 L	x	12	13	x	P2	x	x	x	x	x			4.5~6歳		
2307	SD0000 R 10層	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3						4歳~ (巻物)	10	R	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3						
2027	SD0000 L 10層	11	12	13	C	P2	P3	P4	x	x	x					4.5~6歳	1717	SK3107 R	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3			4歳~		
2031	SD0000 R 11層	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3					4歳~	1701	SK3101 R	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3					4歳~	
2034	SD0000 L 11層	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3					3.5~4歳	10	R	x	x	x	x	x	P4	M1	M2	M3						
2049	SD0000 R 11層	11	12	13	x	m2	m3	m4	M2	-						1.5~2.5歳	1066	SD0002B R	x	x	x	x	P1	P3	P4	M1	M2	x			3.5+歳		
1989	SD0000 R 11層	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3					4歳~ (巻物)	1283	日標 L	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3				3.5~4歳		
1946	SD0000 L 12層	x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3					4歳~																	

*1) x: 道標および製造済。 - : 未製造。
 *2) 切替日→12は、x交換済。 b: 製造済
 *3) 前・後付品は、x: 製造済、b: 製造済、c: カナノAの取り入れ

ウマの下腹巻の届出・交換および取替状況

計測項目	計測点	No.1838	No.232	No.345	No.546	No.201	No.566	No.1994	No.1995	No.2366	No.2347	No.1999	No.421	No.1947	No.2267
		R 3層	SD0000 6層	SD0000 6層	SD0000 6層	SD0000 7層	SD0000 8層	SD0000 8層	SD0000 8層	SD0000 8層	SD0000 8・10層	SD0000 9層	SD0000 10層	SD0000 10層	SD0000 10層
下腹巻1	Ge-M						286.1								
下腹巻届出	Ge-M						420.4								
下腹巻届出	Ge-Cb						231.5								
白腹巻全長・上	FP-M3			33.8		162.7						166.5	167.1		
白腹巻全長・下	FP-M3			161		128									
後付巻全長	MD-M3			77.6		31.4		79.3	78.6						
前付巻全長	FP-P4			83.7		91						88	91.3		
下腹巻届出	HM3			99.2		111.4		106.8	99.7			98.3	103.3	102.8	90.7
下腹巻届出	HM1			66.4				68.6	68.4			75.8	74	71.2	77.8
下腹巻届出	HP2			49.5		52.4		41.2				50.9	52.6		49.5
下腹巻厚1	TM3			18		34.3		31.5	30.8			19.8	18		21
下腹巻厚2	TM1			26.2				36.7	26.4			26.4	25.4		24.3
下腹巻厚3	TP2			17.7		23.3		18				17.4	16.6		19.8
前付巻届出 P3	L		31.7	28.1		32.4	31.5				33.1	33.2	28.8	33	
	B		12	13.6		14	13.4				14.1	17	12.2	14.8	
	H		-	-		-	-				-	-	-	-	
前付巻届出 P4	L			26.3		27	30.5	26.8	25.6		28.7		28.6		24.2
	B			15.4		15.3	15.8	14.7	15.3		17.4		17.1		14
前付巻届出 P5	L		28.2	24.1		25.1	-	24.7	24.9		26.5	26.6	25.6		22.8
	B		14.5	14.6		14.3	-	15.2	15		16.6	12.4	12.8		13.3
前付巻届出 M1	L		24.6	22.9		24.2	25.8	22.4	22		25.5	26.4	24		28.7
	B		12.7	13.2		13.5	14.1	13.7	14.1		13.4	13.5	14.7	13.4	13.5
前付巻届出 M2	L		24.5	23.3		22	26.4	22.9	22.8		23.7	26	24.3		22.8
	B		12.6	12.5		13	13.4	12.6	12.3		14.4	12.5	12.8	12.2	12.6
前付巻届出 M3	L		29.2	29.1		30.4		30.4	31.2		30.5		30.8		31.7
	B		18.8	11		11.8		12.5	12.7		13.4		12.6		11.5
固定巻換							132.4								

ウマ下腹巻の計測値(1)
 第61表 ウマの計測値一覧(2)

計画項目	計画点	No.2017		No.2157		No.1940		No.1909		No.2009		No.2251		No.1946		No.2088		No.2264		No.2265		No.730		No.740		No.1208				
		L	R	R	R	R	R	R	L	L	L	L	L	L	L	R	R	R	R	R	R	R	R	L	L	L	L	L		
		SD0000 10層		SD0000	SD0000 18層	SD0000 18層	SD0000 11層	SD0000 11層	SD0000 11層	SD0000 12層																				
宇野全員1	Ge-Id	366.7																												
宇野全員出	Ge-Id	381.1																												
宇野全員出	Ge-Co	212.2																												
白銀野上	FP-3d3		156.4	167.7			107.5							162.1	157.6													127.8		
白銀野上・下	FP-3d3		165.2											170	120.3														127.1	
白銀野上	M1-3d3		23.8			81.4	84.5							82.1	80.2														76.4	
白銀野上	FP-Pt		87.7	83.9										80.2	80.3														80.3	
宇野全員1	H0d3		106.9				103.4							99.2	102.1															
宇野全員出	H0M1		75	75.5		64	73							73.1	72														75.5	
宇野全員出	HP2		52.6	52.2	54.3	40.8								48.5	47.5														53.3	
宇野全員1	TM3		22.6				21.2							22.1	19.6														25	
宇野全員出	TM1		27.8	28.6	24.7	27.7								25	26.2														29.5	
宇野全員出	TP2		19.8	19.6	20.7	18.3								22.4	16.9														24.2	
新川白銀	FG	L	38.5	31	32.3		38.6						35.1	38.4	36.2	30.2													31.6	
		B	14.5	14.3	12.6		13.6						12.9	14.8	12.8	12.6														12.9
		H	--	--	--		30.1						31.2	--	--														40.2	
新川白銀	FG	L	27.6	27.8	28.3	24.9	28.2						28.4	28.7	28.2									29.7					28.4	
	B	16.6	15.4	14.6	14.2	16.2							14.2	16.4	15.3									15.3					14.8	
新川白銀	PV	L	26.3	26.2	27	22.8	25.5						27.2	27.6	25.5															17.3
	B	15.8	15.8	13.2	12.4	14.4							13.5	16.1	15.7									14.4						
新川白銀	M1	L	22.5	26.2	22.6	26.3							20	24	26.6									26.4	25.9				25.5	
	B	12.4	14.2	12.4	13.7								15.1	15	13									14.1	12.5				14.3	
新川白銀	M2	L	22.7	26.3	22.7	26.7	26.4						28.8	24.8	27									26.4	24.8				25.2	
	B	13	12.6	12	12.4	11.3						13.9	15.1	12.5										12.3	12.8				13	
新川白銀	M3	L	28	28.2	31.4	27.8	28							28.4	28.6															--
	B	11.2	12.1	10.2	10.6	10.6							12.8	10.2																--
規定未満			117.7																											

計画項目	計画点	No.1280		No.2019		No.1213		No.1264		No.725		No.1862		No.1558		No.1715		No.1717		No.1781		No.1595		No.2283				
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L		
		SDX10 10層	SDX10	SDX10-10	SDX10-10	SDX10	SDX10	SDX100F SDX100	SDX100	SDX100F SDX100	SDX100	SDX100F SDX100																
宇野全員1	Ge-Id																											
宇野全員出	Ge-Id																											
宇野全員出	Ge-Co																											
白銀野上	FP-3d3		160.3										161.5															
白銀野上・下	FP-3d3																											
白銀野上	M1-3d3																											
白銀野上	FP-Pt																											
宇野全員1	H0M1																											
宇野全員出	HP2																											
宇野全員1	TM3																											
宇野全員出	TM1																											
宇野全員出	TP2																											
新川白銀	FG	L	31			32.3							30.8		29.5													31.7
	B	14.5				13.3							14		11.8													14.1
	H	--				--							33.2		34.4													37.5
新川白銀	FG	L	28.1			28.6							--		28.7	27	28											24.2
	B	18.5				15.5							--		15.9	14.1	12.3											14.6
新川白銀	PV	L	25.8			28.5	27	28.7	--						28.1	28.3	27	26.3	--									24.7
	B	11.2				15.4	15.7	15.5	--						16.5	15.9	--	15						15	14.3		12.5	
新川白銀	M1	L	25	26.1	24	24.6	26.8	27.2					24	24.8	23.8									23.8	24.7		25.8	21.4
	B	12.4	12.5	14.1	12.9	12	14.2						12	12	12.8	14.4	12.6											12.5
新川白銀	M2	L	24.9			25.4	25	26						24.3	24.2	27.3	25.9	--										26.1
	B	12.5	12.1	12.7	12.2		12.3						11.9	12	12.7	12.5	12.6											12.3
新川白銀	M3	L	29.5	--		31.4	--							27.8	27.9	--	29.5	--									--	--
	B	12.7	--		12.6	--	--							10.8	10.7	--	11.7	--									--	--
規定未満																												

ウマ下層の計測値(2)

No	1907	2641	2908	2458	2472	805	921	1280	1283	2485	2486	696	648	
	SD0000 10層	SD0000 10層	SD0000 11層	SDX10F SDX10F	SDX100 SDX100	SDX100 SDX100	SDX100F SDX100F	SDX100 SDX100	SDX100 SDX100	SDX100 SDX100	SDX100 SDX100	SDX100 SDX100	SDX100F SDX100F	
FG	L	22.7	32.9	35	31.3	30.3	33	31.9	32.4	--	30	30	28.8	34
	B	17	14.6	17	14.4	14.6	14	12.6	15	15.1	13.8	14	13	17.7
	H	24.5	49.5											

計測項目	No228	No24	No242
	SD200	SD2000	SK410
	8層	10層	10層
階層	RPwd	72.1	66.1
階層	GB		(176.4)

計測項目	No6	No141	No28
	東	東	東
	SD200	SD2000	SD2000
	2層	4層	9層
上階等	GL		
	Rd	71.9	74.2
	Dp	68.4	71.6
	Dt		72.0
	No113	No214	No28
	東	東	東
	SD200	SD2000	SK19
	10層	10層	階層D
	Rd	71.0	72.4
	Dp	68.2	70.4
	Dt		69.3
	No289		
	東		
	SK1900		
	階層D		
	Rd	72.0	
	Dp	67.3	
	Dt		67.1

計測項目	No45	No189	No130
	東	東	東
	SD200	SD2000	SK19-30
	10層	10層	階層C
階層	LA		61.1
	Rd	68.0	63.2
	Dp		61.1
	No189	No181	
	東	東	
	SK30	SD2007	
	階層D		
	Rd	62.4	60.9

計測項目	No194	No290	No351	No284	No479	No198	No42	No208	No293	No298	No219	No298	No421
	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
	SD200	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SK1900	SK410	SK410
	2層	4層	4層	8+10層	9層	10層	10層	10層	11層	10層	SK19-30	SK410	SK410
階層	GL												
	Rd	63.0	59.4		61.0	67.4	66.2						
	Dp		61.0		57.0	61.0	70.0						
	Dt	66.0	66.0	61.0	64.0	64.0	62.0	70.0	57.0	61.0	65.0	68.0	
	Dt	61.0	60.0	61.0	59.0	57.0	60.0	61.0	59.0	58.0	56.0	61.0	
階層等		(146.0)	117.4			136.3							

計測項目	No176	No278	No42	No208	No293	No19	No202	No182	No66	No189
	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
	SD200	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SK1900	SD410	SD410A
	4層	10層	10層	8+10層	10層	10層	11層	階層D		
中階等	GL									
	Rd	47.4	53.1	43.2	40	45.5	46.2	27.9	46	58.3
	Dp	41.1	41.5	43.0	37.6	37.0	49			
	Dt	46.3			46.6		(66.0)			
	Dt	36.6			35.6	35	31.4			
階層等		130.9			136.9					

計測項目	No224	No227	No228	No227	No19	No174	No139
	東	東	東	東	東	東	東
	SD200	SD2000	SD2000	SK19	SK19	SK1300	SK2200
	8層	8層	8層	階層D	階層D	階層D	SK2200
階層	GH	52.3	55.1	56.4	58.1	49.1	56.3
	GB	45.2	52.4	51.7	52.7	59.1	57.9

計測項目	No279	No28	No17	No19	No196	No140	No282
	東	東	東	東	東	東	東
	SD200	SD2000	SD2000	SD2000	SK19	SK19	SK19
	10層	10層	10層	10層	10層	10層	階層D
中階等	GB	48		49.4	47.7	38	44.8
	GB		47				47.2

計測項目	No25	No26	No28	No7	No1	No11	No17	No219	No272	No263	No71
	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
	SD200	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SD2000	SK19	SK19	SK19
	8層	8層	8層	10層	10層	10層	10層	10層	階層D	階層D	階層D
高層等	GL	(79.0)									
	Rd		46.1	47.3	46.4						
	Dp		39.4	38.3	31.7						
	Dt		46.2	46.3	46.3						
	Rd		38.4		46.3	41.6	41.2	43.9			
中階等	GB		44.8			48.8					
	Dp		56.7			47.4					
	Dt		51.0			39.4					
	Rd		47.2			45					
低層等	GL										
	GB		43.4								
	Dp		38.1								
	Dt										
階層等		(121.9)	140.4		118.5	(126.3)	124		120.7	(138.5)	

- *) GL: 最大風。Rp: 近位階層。Rd: 近位階層。
 Dp: 遠位階層。Dt: 遠位階層。GB: 最大風。
 RPwd: 最大風。GLP: 最大風。
 SDO: 計測器小車。DPA: 計測器小車。
 SPC: 半円形吹流。DPA: 計測器小車。
 DCN: 最大風。
 **) 計測方法は、Dish A (1976) に従った。

ウマ四肢骨の計測値

第63表 ウマの計測値一覧(4)

12 文字資料

(1) 墨書・ヘラ書・線刻土器

墨書土器

A 出土の概要

墨書土器は添書 4点を含め 1702点出土した。小破片が多いが、推定可能なもの及び人面墨書土器も含めて 177種 725点を判読した。それらを 1点ごとに示したのが第 76表である。また、墨書の種類・出土数については内容分類も含め考察編の表にまとめている。考察編の表によると呪符、「物代進上」などの文書、「厨」「西曹司」などの施設名、「宮城」「宮郡」「曰理」などの地名、「秦」「物部」「丸子」などの人名、人面墨書といった墨書がみられる。だが、これら意味を限定しやすい墨書は一部であり、十分に意味を限定できない 1字のみの墨書が大半を占めている。また、1種の墨書について 5点以上が出土したのも 32種と少なく、他は 1・2点程度の出土が多い。墨書の記入部位は第 66表 によると外面の体部、胴部に墨書されるものが多く、底部がそれにつづく。少数だが内面、両面に墨書されたものもみられる。外面の体部、胴部に墨書されたものの方向は、正位が大勢をしめ、倒位や横位で

	土 器 類				須 恵 器				赤 土 器	灰 輪 陶 器	不 明	合 計			
	坏	高台坏	甕	その他	計	坏	高台坏	甕				その他	計	合計	底部集計
北1西3道路	20		4		24	11				11			不明1	36	15
大跡西2道路	157	2	24	1	186	211	8	2	II	227	坏2	不明4		419	184
南1西1道路	11		1		12	6			不明1	7	坏高台坏1	坏1		23	10
南2西0道路	4				4	3				3				7	3
北1西2区	1				1									1	0
北1西3区	166	3	3		172	64	2		Ⅷ1Ⅷ2	69	坏9			250	86
南1西1区	2				2									2	0
南1西2区	154	2	5	鉢1不1	163	123	1	1	125	Ⅲ	Ⅷ3	坏1		296	126
南1西2区	1				1						坏1			1	1
南2西1区	90	1	2		93	19			19	坏3		坏1		116	59
南2西2区	3				3	2			2	坏1				6	4
SD2000 河川跡	250	4	72	Ⅳ	330	195	1		V	200	坏3	Ⅷ1不明1	坏1	536	320
SD2000 以南	4		1		5	3				3				8	4
合計	963	12	112	9	996	637	12	3	14	666	26	9	5	1702	812

I. 高台皿1不明2 II. 甕2底1横輪1不明2 III. 坏2高台坏1不明1 IV. 鉢1高台皿2不明1
V. 高台皿1蓋1不明2

①地区・器種・器形集計表

	土器器坏	須恵器坏
田板ヘラケズリ	57	13
手板ヘラケズリ	132	22
ヘラ切り無蓋甕	3	226
未切り無蓋甕	173	94
その他・不明	12	2
合計	367	357

②坏器部分集計表

	底部	正位	倒位	横位	不明	小計	%
底部	336					336	19.7
体部		544	86	56	548	1234	72.5
体・底部		22	2	6	28	58	3.4
内面		22	5	1	32	60	3.5
両面		6	2		6	14	0.8
小計	336	594	95	63	614	1702	100
%	19.7	34.9	5.6	3.7	36.1	100	

③記入部位集計表

第66表 墨書土器集計表

書かれたものは少ない。書体(第 203~212図)は大きく崩れるものは少なく全般に真書あるいは行書とみられるが、なかには草書もある。その他、合わせ文字や変形した字体のものもある。達筆とまでいえるものは少ないが、筆が細く速い筆運びで書かれたものが結構あり、肉太のものは少ない。墨書土器全般のなかでみれば筆使いに慣れた書き方のものが多いとみられる。

墨書土器の分布は濃淡があるがほぼ調査区全域にわたり、出土遺構の総数は 164遺構にのぼる。第 66表 は地区ごとに出土数、器種、器形を集計したものである。S D 2000河川跡からの出土が 536点と最も多く、次に東西大路西 2道路交差点部分以下、東西大路部分と略す の 419点がつづく。道路遺構では東西大路部分からの出土が圧倒的で他の道路遺構からの出土は少ない。道路遺構で仕切られた区内部では広範囲を調査した 3つの区で各々 100点以上出土している。なかでも東西大路に面した北 1西 3区、南 1西 2区での出土が各 250点以上と顕著である。上記のことから墨書土器は河川跡と東西大路、東西大路に面した区に多く分布するといえる。

墨書された土器の器種・器形は土師器・須恵器環が圧倒的に多く 全体の 50.7%、37.4%、土師器甕(6.0%)がそれにつく。赤焼土器環など他は極少数である。土師器環のほとんどはロクロ調整であり、底部資料の切離し・再調整技法を示した第 66表 によると回転系切り無調整のものが 173点と主体をしめるが、切離し後再調整の施されるものも合計すると 179点あり、両者がほぼ半半分づつ存在する。先に例示した墨書のなかでは「厨」の 1点が糸切り無調整の土師器環であり、「秦」については回転系切り無調整のものと回転ヘラズリ(切離し不明)のものが 1点づつみられる。須恵器環はヘラ切り無調整のものが主体をしめ、糸切り無調整のものはその半分以下である。また、切り離し後再調整の施されるものは少ない。先に例示した墨書のなかでは呪符と「宮部」がヘラ切り無調整、「丸子」が糸切り無調整、「日理」が回転ヘラズリ(切離し不明)の須恵器環である。土師器甕の多くは人面墨書土器で、河川跡と東西大路部分から集中的に出土している。ロクロ調整のものがほとんどであるが、若干非ロクロ調整のものもみられる。以上のようなあり方をみると、墨書はおおむね 9世紀代の土師器・須恵器環、土師器甕に多く墨書されている。赤焼土器環や非ロクロ調整の土師器甕が若干含まれることを多少評価してもほぼ 9世紀から 10世紀前半におさまるとみられる。

B 各地区の墨書土器

100点以上出土した地区について分布状況、墨書の種類などを述べる。

a . 東西大路部分

道路側溝を中心に 419点が出土した。西 2道路より東西大路からの出土が多い第 67表 。一方、時期・遺構ごとに出土数と判読した墨書の内容をまとめた第 67表 から側溝の時期ごとの出土数をみると、A期からの出土はなく、B期が 8点、C期が 96点、D期が 22点、E期が 68点、F期が 45点、G期が 35点、H期が 11点、I期が 38点であり、C期からの出土が目立つ。また、各時期側溝出土土器の底部資料数と墨書土器底部資料数およびその割合を示した第 67表 によると、墨書土器はB期からみえはじめC期で頂点に達したあと次第に減少する傾向にある。なお、東西大路部分の墨書土器の器種・器形(第 66表)は須恵器環(50.4%)に書かれたものが多い。

墨書は第 67表 に示した 58種 42点を判読した。1字 1点のものが多く、10点以上出土したのは人面

墨書土器、「大」、V字状記号 註1のみである。人面墨書土器は20点中18点がF期以前の側溝から出土し、なかでもC期が8点と目立つ。人面は須恵器環に書かれた1点を除きすべて土師器裏に書かれている。「大」は全出土教22点のうち14点が、V字状記号は20点のうち12点が同部分からの出土である。その他、数は少ないが「墨 左標所」「物代進上」などの文書、「宮郡」「海」「秦」「湯臣」などの郡名や人名、「伊北」「山本」「子田」「万」など複数字の墨書、「川」「定」「富」「生」「忻」「太」「伊」「得」などの墨書、「」などの記号、習書などもみられる。これらの墨書の記入部位と方向は全体の様相と大義ない。書体 第203図は大きく崩れるものは少ない。「墨 左標所」(墨書30以下、墨書は略す)、「正」194は行書とみられる。また、全般に筆が細く筆運びの速い文字が多い。「秦」228、「湯臣」(1910)、「子田」1582、「富」1870、「戸」381、「納」165などはかなり筆使いに慣れた書き方である。しかしその一方「太」1977 1978、「永」1585、「来」1889、「八」167、「墨」(1878)のように変形した字体をとるものもみられる。

b. 北1西3区

46遺構から243点、遺構確認面から7点の計250点が出土した。遺構ごとに出土数と判読した墨書の内容を示したのが第68表である。分布状況を見るとS D 827以西の区北西部で1遺構1点、S D 827以東S D 553以北で11遺構27点、S D 553以南の区南東部で28遺構159点、その他が6遺構56点で墨書土器は建物の密集する南東部に集中的に分布している。10点以上出土した遺構としてはS I 579 S E 502 S K 541 S I 531 S E 660がある。なお、この区の墨書土器の器種・器形 第66表は土師器・須恵器環が圧倒的に多く、その他は極少数である。

墨書は第68表に示した26種83点を判読した。1種につき10点以上出土したものに習書、「定」がある。習書は全出土教15点のうち14点が、「定」は全出土教20点のうち12点が同区から出土した。その他、X字状記号 註2も全出土教9点のうち8点が同区から出土している。これらについては遺構も限定的で先にあげたS I 579 S K 541からの出土が目立つ。以上の他、少数だが「上万」「千万」など複数字の墨書、「富」「木」「田」「生」「忻」などの墨書、「」などの記号、数字などがみられる。これら墨書の記入部位は全体の様相に較べて体部が211点84.4%と少し多く、その底部分が25点(10.0%)と少ない。方向は全体の様相と変わらない。書体 第204図は大きく崩れるものは少ない、同区に多い「定」117 123 124 1250は行書である。また「上万」(255 260)は合わせ文字である。その他「木」1237 1249 1250では3・4画目を長く、「是」(2064)では最終画を長くというように字体が特徴的なものもある。「定」(123)、「富」(1302 1408)、「田」1235など筆使いに慣れた書き方もみられるが、この区では少々肉太の字体が目立つ。なお、墨書1934「太」は漆書である。

c. 南1西2区

49遺構から237点、遺構確認面などから59点の計296点が出土した。遺構ごとに出土数と判読した墨書の内容を示したのが第68表である。分布状況は未調査部分を挟み北西部が12遺構26点、中央部が26遺構163点、S D 1020以南の南東部が7遺構31点、その他が4遺構17点であり、この区では中央部で墨書土器が際立って多い。10点以上出土した遺構にはS D 1020 S K 1030・2019があり、特にS D 1020からの出土が合計65点と目立つ。なお、この区の墨書土器の器種・器形 第66表は土師器・須恵器

部位・方向は全体の様相と変わらない。書体(第 205図)は大きく崩れるものは少ないが「守」(610 619 2225)はかなり崩れ行書あるいは草書とみられる。「川」は3画目が左に開くものが多い。また「上」599、「七」92など文字をでかこったものや「忻」510のように文字の理解が疑わしいもの、「万」(556)のように変形した字体のものもある。「厨」(540)、「宮城」560、「守」610、「平」2227、「是」419、「常」(411)などは筆使いに慣れた書き方である。肉太の文字も若干みられるが、全般に筆が細く筆運びの速い文字が多い。なお、墨書 1656「大」は漆書である。

d. 南 2西 1区

17遺構から 108点、遺構確認面から 8点の計 116点が出土した。遺構ごとに出土数と判読した墨書の内容を示したのが第 69表 である。分布状況は S D 16028以北が 1遺構 1点、S D 1602B部分が 11遺構 93点、S D 1602B以南が 8遺構 31点で、この区では S D 1602B部分に墨書土器が集中している。なお、この区の墨書土器の器種・器形 第 66表 は土師器坏 77 % が多い。

墨書は第 69表 に示した 23種 49点を判読した。1種につき 10点以上出土したものはないが「宇多」の文字を含む墨書が目目される。「宇多」「宇多長」「宇多田」「宇カ多女」などの種類がある。「宇多」の文字を含む墨書は「多木力」といった 2字以上の墨書で「宇多」の一部を含むとみられる墨書を加えると全出土数は 21点あり、そのうち 12点が同区の S D 1602B部分から出土している。以下、この種の墨書は「宇多+」と表記する。「宇多+」の他では「長」も全出土数 11点のうち、8点が同部分から出土している。その他、少数だが「西曹司」といった官司名や複数字の墨書、「得」「藤」などの墨書、記号、数字などがみられる。これらの墨書の記入部位は全体の様相と大きく変わらないが、体部墨書の方向は横位のものが 17点 14 % とやや多い。同区の墨書の書体 第 206図 は崩れが目立つ。「宇多+」(726・751・753・754・724)は行書、「得」(708・709・1721)は草書とみられる。また「長」730・1703・2316 は略字である。この区でも全般に筆が細く筆運びの速い文字が多い。「西曹司」707 は達筆といえよう。その他、「宇多」(754)、「悪」(2302)、「船」(715)、「毛」725などは筆使いに慣れた書き方である。

遺構	小区	点数	墨書内容とその点数
SI1543	1	1	
SD1602A	2	1	
SD1602B	2	59	宇多+ 長 得 西曹司 船 万 藤 毛 宇多田 宇多女 宇多
SD1602 深掘	2	5	宇多…1
SE1606	3	8	得…3 西曹司…1
SK1610	3	2	
SD1713	3	1	藤…1
SK1748	3	1	
SD3402	2	4	宇・長…各1
SD3425	2	2	
SD3461A 北	2	1	
SX3461B 北	2	3	宇多+ 長・田・岳…各1
SX3461B 南	2	15	長-2 悪-2 宇多+ 宇多田-1 西曹司-V 字状記号-各1
SX3461D 南	2	3	万…1
SB3441	3	1	
SB3447	3	1	得…1
確認面等		8	船・人面・ <small>カ</small> …各1

①出土遺構表

点数	種類 (23種49点)
12	宇多+ 長
8	得
4	藤
3	宇・田
2	悪
1	西曹司・東口・口長・口田・玉・山・船・全・藤・毛・有・万・V字状記号・ <small>カ</small> ・ <small>カ</small> ・人面

②墨書種類別点数

第69表 南 2西 1区墨書集計表

墨書は第 70 表 に示した 104 種 285 点を判読した。各種少数の出土が多く、1 種につき 10 点以上が出土したのは人面墨書土器、「藤」「合」のみである。人面墨書土器は 74 点あり、全出土数 102 点の過半数をこえる。各層位ごとの出土数は第 70 表 に示しているが、その様相は河川跡出土墨書土器全体の様相とほぼ同じで特に 10～11 層に目立つ。「藤」「合」は「藤」1 点を除きすべて河川跡からの出土である。数は 10 点にみえないが「善」「備」も同じ傾向を示す。その他、呪符、「厨」「小田」「物部」「秦」「丸子」などの施設・地・人名、「宇多+」の墨書、「酒」といった物品名、「上万」「有得」「村人」などの複数字の墨書、「木」「中」「田」「今」「太」「長」「川」「定」「富」などの墨書、「千万」「十万」などの数字、「」などの記号もみられる。これらの墨書の記入部位・方向については全体の様相と大差ないが、底部に書かれたものが 137 点 25.6% とやや多めである。書体 第 206～208 210～212 図は「厨」2681、「定」2726、「有得」810、「善」(834・888)、「印」2757、「新」2760、「」851 など崩れるものもあるが大きく崩れるものは少ない。全般に真書あるいは行書とみられる。呪符 2730 はかなり達筆である。「藤」もかなり筆使いに慣れた書き方が多い。また「宇多利」1006、「合」876 972、「善」(888)、「日」1009、「東」(964)、「太」2746、「嶋」(2735 2785)、「行」2789、「」(2782)、「広」2741、「」851、「着」(2804)、「成」2742、「村」829 など筆慣れした書き方とみられる。なかには「合」885・907・2759・2907、「又」883・884 のような特徴的な書き方や「女」820・991 のように文字の理解が疑わしいものもあるが、全般に筆が細く筆運びの速い文字が多い。その他「生」2683、「久」2713、「木」(912・995) のように文字全体・下半をで囲ったものや「千万」916、「十万」(2743) のような合わせ文字、漆書の「」2837 もある。また「備」842・2632・2696・2761 にみられる様々な書き方も注目される。

ヘラ書土器

焼成前にヘラ状の工具で書かれたヘラ書土器は 387 点ある。このうち判読したのものについては後に一覧表 第 71 表 をあげ、また 第 213 214 図に代表的な書体をあげた。さらに内容を分類して示したのが第 71 表である。ヘラ書は文字・数字・記号など 22 種がある。ほとんどが 1 字のヘラ書で「」一本線と「十」(十字状のヘラ書)が飛び抜けて多く、他は少数である。記入部位(第 72 表)は外面の底部に施されるものが多い。体部に施されるものは少なく、方向も不明のものが多い。なお、ごく少数だが内面にヘラ書されたものもみられる。

第 72 表 は地区ごとに出土数、器種、器形を集計したものである。北 1 西 3 区が 128 点と最も多く、南 1 西 2 区の 93 点、東西大路部分の 79 点がそれにつづく。他の区からの出土は少なく、河川跡でも出土数は 41 点にすぎない。ヘラ書土器は東西大路とそれに面する区に多く分布するといえる。器種と器形をみると須恵器環が多く、土師器環がそれにつく。この 2 種で大半を占めており、他は微量である。須恵器環は底部資料の切り離し・再調整技法について示した第 72 表 によるとヘラ切り無調整のものが大勢をしめ、糸切り無調整のものは

分類	点数	内 容
文字	各 2 名 1	士・人 里・天・木・材・口太
数字	2 各 1	九 七・廿・卅
記号	126	— (一本線)
	117	+ (十字状ヘラ書)
	12	= (二本線)
	6	≡ (三本線)
号	各 3 2 各 1	●・三本線 上 四本線・七本線
他	各 1	夕・化

第 71 表 ヘラ書分類表

少ない。土師器環は口クロ調整のものがほとんどであり、第 72表 によると糸切り無調整のものが主体を占めている。このようなあり方からみてヘラ書は 9世紀代の須恵器・土師器環に多く施されているといえる。

ところで、ヘラ書の示す意味については情報が少なく、ほとんどが不明とせざるをえない。また、ヘラ書はいずれも焼成前に施されているので生産地において意味をなすものとみられ、その意味が本遺跡の性格と結びつく可能性は薄いと考えられる。数量の多い「」と「十」について分布状況・器種・器形などの特徴も検討したが、そのあり方はヘラ書土器をはじめ土器（特に坏類）全体のあり方と大きな差はみられなかった。

線刻土器

焼成後に先端の尖った工具で書かれた線刻土器は 13点ある。第 73表がその一覧表、また第 207 213 214図にいくつか書体を示した。線刻の内容は「木」「下」「大」「川」などの文字、「」「＝」二本線などの記号のほか、格子状に線刻されたものもある。数量的には「」が 4点と目立つ。これらの文字・記号は墨書土器と共通するものが多い。また「川」のように墨書で「川」を記した後にそれをなぞるようにもう一度「川」が線刻されたものがあるのも注目される。なお、記入部位は外面の体・胴部が 5点、底部が 3点、内面が 5点であり、内面も多いことが特徴的である。

線刻土器の分布については出土数が少ないので明確にできないが、東西大路部分が 5点と多いこと

	土師器					須恵器					その他	合計
	坏	高台坏	壺	その他	計	坏	高台坏	壺	その他	計		
北 1 西 3 道路	1				1	13			壺1不1	15		16
大路西 2 道路	23		2	不1	26	46		2	壺2不2	52	中世陶器壺1	79
南 1 西 1 道路	4	1	1		6	2				2	赤焼土器坏2	10
南 2 西 0 道路	2				2	1					1	3
北 1 西 3 区	37		2	蓋1不2	42	79	1		壺1不1	82	赤焼土器坏3 灰釉陶器皿1	128
南 1 西 2 区	21		2	不1	24	61	1	4		66	赤焼土器坏1 灰釉陶器碗2	93
南 2 西 1 区	12				12	3			不1	4		16
南 2 西 2 区					0				不1	1		1
SD0000 河川跡	12		1	蓋1	14	24			壺2瓶1	27		41
合計	112	1	8	6	127	229	2	6	13	250		10 387

①地区・器種・器形集計表

	土師器坏	須恵器坏
回転ヘラケズリ	9	5
手持ちヘラケズリ	14	17
ヘラ切り無調整	0	157
糸切り無調整	51	29
その他・不明	16	2
合計	90	210

②坏底部分類集計表

	底部	正位	側位	横位	不明	小計	%
底部	335					335	86.6
体部		7	2		30	39	10.1
体・底部					7	7	1.8
内面			1		5	6	1.5
小計	335	8	2	0	42	387	100
%	86.6	2.1	0.5	0.0	10.8	100	

③記入部位集計表

第72表 ヘラ書土器集計表

は指摘できる。器種・器形は土師器坏が 8点、土師器高台坏が 1点、須恵器坏が 3点、須恵器甕が 1点で、坏類が大勢をしめる。土師器坏はすべてロクロ調整のもので底部切離し後再調整の施されるものが 6点ある。須恵器坏はヘラ切り無調整のものが 2点、糸切り無調整のものが 1点である。このようなあり方からみて線刻は 9世紀前半の土師器・須恵器坏に多いとみられる。

ところで、線刻土器については時期的に墨書土器とほぼ同時に登場したこと、8世紀半ばから後半には主要な役割を果たしたこと、墨書土器盛行期には墨書と同一文字を線刻し墨書の補完的機能を果たしたことが指摘されている 平川 1993。本遺跡の線刻土器は墨書土器と共通する文字・記号が多く、「川」のように墨書をなぞる線刻もある。また墨書土器に較べ少数であり、年代的には墨書土器と古い時期（9世紀前半）で重なっている。したがって、本遺跡の線刻土器は墨書土器の補完的機能を果たしたものと考えられる。その場合、線刻された文字・記号を同種の墨書に含めた検討が可能となる。

遺構・層位	線刻内容	器種・形	分類	記入部位	方向	登録	押印	写真図版	土器押印
SX10 I南	木	土師器坏	B2	内面底部	正位	20	214	105-25	19-12
SX30D 東	下	土師器坏	B1	内面底部		1540	214	105-26	
SX10C 北東	格子状線刻	土師器坏	B1	体部	91	214	105-30		
SX10C 北西	大	土師器坏	B1	底部	253	213	105-3	17-22	
	#	土師器坏		体部	1551	214	105-31	17-25	
SX4014C 東	下 _a	土師器坏	B2	内面底部	1118				
SBS10	#	須恵器坏	3	底部	1315				
SK5 1層		須恵器坏	3	内面底部	1556	214	105-32		
SK1018	千口	土師器坏		体部	537	214	105-28	77②-5	
基本層位 III A層	□ _a 、#	土師器坏		内面体部	441	214	105-27	67-9	
SD1602B 1層	ヤ	須恵器甕		体部	774	213	105-16		
SD1627 1層	山 _a	土師器坏	B1	体部	1712	214	105-29		
SD2000 4層	川	須恵器坏	4	体部	1060				
10層	=	土師器高台坏		底部	1064	213	105-15		

第73表 線刻土器一覧表

(2) 木簡

14点出土した。それらの出土遺構、法量、樹種、型式などをまとめたのが第74表である。型式は木簡学会の分類型式に准じた。なお、表の番号は第215・216図及び写真図版106・107の番号と対応する。

番号	出土遺構	法量(mm)	樹種	木取	形式	備考	登録
1	SX10A 南	400 × 32 × 6	サワラ	板目	011		8
2	SX10C 南東	(56) × (26) × 3	モミ属	板目	081		3
3	SX10C 南西	(99) × (19) × 7	不明	板目	081		9
4	SX10C 北西	(140) × 19 × 8	ヒノキ	板目	039	折敷の転用	10
5	SX10D 南	(116) × (19) × 5	サワラ	板目	081		7
6	SX10E 南	径162 × 厚9	不明	板目	061	曲物の底板	5
7	SX10E 北	(134) × (27) × 4	モミ属	板目	081		6
8	SX10G 南	(136) × 22 × 5	モミ属	板目	039		2
9	SX10H 南	97 × 30 × 5	モミ属	板目	032		1
10	SK410	(51) × 24 × 5	クリ	板目	081		12
11	SE659	(343) × 27 × 10	エゴノキ属	削り出し	061	題紙軸	11
12	SD2000 11層	(68) × 23 × 4	ヒノキ	板目	039		13
13	SD2000 11層	(79) × (20) × (3)	モミ属	板目	081		14
14	遺構確認面	(187) × (24) × 5	ヒノキ	板目	081		4

第74表 木簡一覧表

A 出土遺構

木簡は東西大路側溝から9点、SK410から1点、SE659から1点、SD2000から2点、遺構確認面から1点が出土した。東西大路側溝からの出土が多いが、出土側溝の時期や南北の別は各木簡ごとに異なる。ただし、灰白色火山灰を含むF期より古い側溝からの出土が多い傾向があり、なかでもC期側溝からの出土がやや目立つ。他の出土遺構のうち、SK410は東西大路北側溝と西2道路側溝の交わる部分に位置する通路構築以前に埋まった土壌である。この土壌を壊して道路遺構が造られている。SE659は北1西3区の南東部に位置する井戸跡である。構築年代は9世紀前半で、木簡は井戸枠内の埋め土から出土した。SD2000は南2西1区の東側を流れる河川跡である。木簡は2点とも9世紀初頭に堆積した層とみられる11層から出土した。

B 各木簡について

まず、東西大路の側溝から出土した1～9の木簡について述べる。1はA期南側溝から出土した。2カ所で折れているが接合すると長さ40cmに及ぶ木簡である。上端から10cm程の部分に墨痕がみえるが、薄いため判読できなかった。2はC期溝東側溝から出土した小断片で、3字分の墨痕がみえるが判読できなかった。3はC期南西側溝から出土した長さ10cm程の断片で上端が折れ、左辺が割れている。なかほどより下に薄く文字がみられ「九月十一日」の日付が判読された。

4はC期北西側溝から出土した長さ14cm程の木簡で下が折れ、左辺が割れている。上端から下1.5cmの部分に切り込みがある。下端は折損のため不明である。型式は039型式に分類されるが、上端に明瞭な段が施されており縦断面の形状からみて折敷を木簡に転用したものとみられる(註3)。文字は両面にあり、一面は「弘仁十一年十月 廿日」の日付が判読できた。弘仁11年は延暦820年である。日にちについては『日本暦日便覧』によると同年10月が小月であること、10日とみると「十」字が全体の字配りのなかで左によることから「廿日」とした。もう一面にも文字があるが、割れのため判

読できない。切り込みを持つことや日付を記すことから、この木簡は荷札とみられる。判読できなかった面には、荷の内容や貢進主体が記されていたと考えられる。また、折敷の転用であることからこの木簡は間に合わせ的なものであることが考えられ、長期間保存される荷物につけられたものではない可能性が強い。その廃棄は記された日付から遠くない時期とみられる。5はD期南側溝から出土した長さ12m程の断片で下が折れ、左辺が割れている。一面にかすかに墨痕が残るのみである。6はE期南側溝から出土した径16m程の曲物底板の内側に墨書されたものである。ほぼ中央で割れている。墨書のある面では墨書を切つて無数の刃痕がある。文字は3行15字が認められ、3行目で「二月十五日」の日付が判読できたが、他は刃痕で荒れているため判読できなかった。7はE期北側溝から出土した長さ13m程の断片で上下が折れ、右辺が割れている。墨痕は両面に濃い目に残るが判読できなかった。8はG期南側溝から出土した長さ14m程の断片で下が折れ、右辺も割れるが一部は残存する。上端から下2mの部分に切り込みがある。下端にも加工の痕跡が残るが折損のため詳細は不明である。墨痕は両面にあり、一面はやや濃い目に残るが、もう一面はかすかに墨痕が残るのみである。どちらも十分な判読はできなかった。9はH期南側溝から出土した長さ10m弱の木簡で、一部欠けるがほぼ完形である。両面にかすかに墨痕が残る。

次に、東西大路の側溝以外から出土した10～14の木簡について述べる。10はS K 410から出土した長さ5m程の断片で上下が折れている。2行7字分の文字があるが、折損と墨の薄い部分があるため十分に判読できない。11は北1西3区のS E 659から出土した題籤軸である。2カ所で折れ、下端は失われている。題籤部の大きさは長さ70m幅27mの長方形で横断面は蒲鉾形を呈す。平坦な一面が題籤に利用されており、かすかに墨痕が認められる。なお、題籤部の3カ所に貫通する穴が穿たれているが、それが題籤機能時のものか否かについては不明である。12は河川跡から出土した長さ7m程の断片で上が折れている。下端から上15mのところに入り込みがある。上端は折損のため不明である。墨書は一面のみにある。4字確認され、後2字は「五斗」と判読できる。「五斗」という数量は米の荷札によくみられる。この記載と切り込みを持つ形状からこの木簡は荷札とみられる。「五斗」より上の文字は判読できなかったが、荷の内容や貢進主体が記されていたと考えられる。13も河川跡出土の長さ8m程の断片で上が折れ、左辺が割れている。3字分の墨痕があるが、判読できなかった。14は遺構確認面から出土したもので、3断片からなり、接合すると長さ19m程になる。上下が折れ、右辺が割れている。一面にかすかに墨痕が残るのみである。

(3) 漆紙文書

A 出土の概要

14点出土した。それらの出土遺構、形状、法量、内容をまとめたのが第75表である。出土遺構は各区の土壌、溝、建物などで、道路側溝や河川跡からは出土していない。区ごとにみると、北1西3区が7点、南1西2区が4点、南2西1区が3点、北1西3区からの出土がやや多い。同区ではSK836 SK952のように複数の漆紙文書が出土した遺構もある。出土した漆紙文書は小断片が多いが、なかには残存状況がよく円形を呈するものや四つ折りにして廃棄されたものもある。また、土師器・須恵器坏や白木の椀に付着した状態のものもある。文書の内容・性格については、小断片が多いため特定できるものが少ないが『古文孝経孔氏伝』や計帳などがある。

番号	遺構・層位	形状	法量(推定径)	内容(オモテ面)	内容(ウラシ面)
1	SK87	断片	3.2×2.4cm	不明	不明
2	SK836 1層	楕円形	径14.5cm	不明	不明
3	SK836 1層	断片	8.2×9.6cm	不明	不明
4	SK952 1層	円形	径16.6cm	鏡・布等記載の文書	人名記載の文書
5	SK952 1層	1/4円形	径12.3cm	匿名横文書	不明
6	SK952 1層	二枚重ね A…円形 B…円形	径19.2cm 径15.2cm	計帳	「安八郡給馬」の文字有り 計帳匿名
7	SD1020B 1層	1/4円形…四折り	径21.2cm	「古文孝経孔氏伝」	不明
8	SB1176 N3E3	断片	9.0×6.9cm	不明	不明
9	SK3024	断片 土師器坏に付着	4.9×5.4cm	不明	不明
10	北1西3区遺構露部	断片 須恵器坏に付着	5.1×2.9cm	不明	不明
11	北1西3区遺構露部	断片	3.5×2.4cm	不明	不明
12	南2西1区遺構露部	断片	5.4×7.1cm	不明	不明
13	南2西1区遺構露部	断片	5.1×5.1cm	不明	不明
14	南2西1区遺構露部	2/3円形 白木椀に付着	径10.6cm	不明	不明

第75表 漆紙文書一覧表

B 各漆紙文書について

各漆紙文書の出土遺構、形状、文字の残存状況について、比較的残りの良い7456号漆紙文書から述べる。

a. 7号漆紙文書(第217図)

7号漆紙文書は南1西2区を北から南に屈曲しながら流れるSD1020C溝跡の底面から出土した。同溝跡が北から最初に東に流れをかねて10m程のところが出土地点である。C期は10世紀前半代の遺構とみられる。本漆紙文書は漆の付着面を内側に四つ折りにして廃棄されたもので、現状では半径10.6cmの1/4円形を呈している。約半分が失われているが、残存部分から復元される推定径は21.2cmである。なお、内側の添付着が強固であり、また四つ折りの形状もよく留めているので、切開による展開は避け、観察と写真とによる復元的な展開を行なった。本漆紙文書ではオモテ面、ウラシ面ともに文字が確認できる(註4)。オモテ面では文字と縦押界線が確認された。文字は肉眼でみえるほど良好に残存する。書体は真書で、かなり達筆である。文書は本文と注文とからなり、注文で16行が残存し、4-5行目と11-12行目に本文が認められる。文字数は本文が15字、注文が139字、文字の大きさは本文が1.0cm前後、注文が0.6cm前後である。行間は注文の心で約1.0cmをはかる。縦押界線は部分的に6本認められる。界線間の距離は右から1.2 1.0 0.8 1.1 2.2cmである。ウラシ面の文書はオモテ面側から左文字で確認される。縦・横の墨界線を持つ整然とした文書である。文字数は26

字、文字の大きさは 0.6m前後である。書体は整った真書で、数は大字で表している。墨界線は横が 5本、縦が 4本確認された。界線間の距離は、横が上から 1.5 1.2 1.3 6.4m 縦が右から 1.5 1.6 (8.7) mである。

b. 4号漆紙文書(第 218図)

北 1西 3区北西部に位置する S K 952土壌から出土した。この土壌からは後述の 5 6号もあわせて、計 3点の漆紙文書が出土している。遺構の重複関係と出土した土器から土壌の年代は 9世紀前半とみられる。本漆紙文書は一部が欠けるがほぼ円形を呈す。推定径は 1.6 mである。文字はオモテ面、ウリシ面ともに確認できる。オモテ面では文字と縦押界線が確認された。文字は肉眼でみえるほど良好に残存するが、漆の付着が一部オモテ面にも及ぶため、その確認はできなかった。確認された文字は 8行 34字、2-4行目には副注が付されている。文字の大きさは 1.0m前後、副注が 0.7m前後である。書体はやや崩れた真書で、数は小字で表している。縦押界線は 1行ごとにほぼ等間隔で 6本認められた。界線間距離は 2.1m前後である。ウリシ面は漆の付着がひどく、副注を含め 1行分の文字が確認されたにとどまる。文字の大きさは 0.7m前後、副注が 0.4m前後である。書体は真書で、数は小字で表している。

c. 5号漆紙文書(第 218図)

4 6号漆紙文書と同じ S K 952土壌から出土した。形状はほぼ 1.4円形をしている。推定径は 1.2.3m である。漆の付着が少ないため、もろく壊れやすい。文字はオモテ面、ウリシ面ともに確認できる。オモテ面では文字と墨界線が確認された。墨界線は縦に 4本、横に 2本あり、文字に比べて色が薄い。縦押界線はほぼ等間隔に走り、界線間距離は 1.6m前後である。横墨界線の界線間距離は 2.7m である。文字は上の横墨界線に書出を揃えて 3行 6字ある。文字の大きさは 0.5m前後で、書体は達筆な真書である。ウリシ面には 15字程度の文字がある。文字の大きさは 1.0m前後で、書体はやや崩れた真書である。字配りがやや規則性に欠ける。また 2行目なほほどの 4字が墨線で囲まれている。

d. 6号漆紙文書(第 219図)

出土遺構は 4・5号漆紙文書と同じ S K 952土壌である。本漆紙文書は 2枚が重なって出土した。2枚ともほぼ円形で大小の違いがある。便宜的に大きいほうを A紙、小さいほうを B紙とよぶ。大きさは A紙が径 1.9.2m B紙が径 1.5.2m である。A・B紙の重なり方は、A紙のウリシ面に B紙のオモテ面がほぼ隙間なく合わせ重なっていた。しかし、癒着はそれほどひどくなく、出土当時から両紙が剥がれかかっていたので一部を除き切り離すことができた。癒着がひどくなかったのは、A紙ウリシ面の漆がかなり掻き取られたうで B紙が重ねられたためとみられる。文字は A紙では確認できなかった。B紙ではオモテ・ウリシ面ともに文字が認められた。以下、B紙のみについて述べる。B紙オモテ面は A紙ウリシ面に癒着していたので漆が付着しており、全体的に文字が見えにくい。8行 41字が確認された。3・4行目のなかほどより下には副注もみられる。文字の大きさは 0.7m前後、副注が 0.5m前後である。書体は真書で、数は大字で表すが、副注は小字で表している。界線は確認できなかった。行間距離は心々で 1.7m前後である。ウリシ面は漆の付着がひどく、文字は左側の 1行分をはじめ 12字が確認できたにとどまる。文字の大きさは 1.0m前後で、書体は真書、数は小字で表し

ている。界線は確認できなかった。

e. その他の漆紙文書（第 220 図）

その他の漆紙文書についてみると出土遺構で注目されるのは S K 836 である。2 点出土している。この土壌は北 1 西 3 区の北西部にあり、4-6 号漆紙文書を出土した S K 952 に近接する。遺構の年代も S K 952 と同じ 9 世紀前半とみられる。形状については 2・3・8・9・10・14 号漆紙文書が注目される。このうち 2・8 号漆紙文書は漆容器からはずされて廃棄されたものである。2 号漆紙文書は漆容器の内径にそって折られていたとみられる部分が一部残っている。8 号漆紙文書はウルシ面を内側に二つ折りにして廃棄されている。漆の付着が強いので展開はできなかった。一方、9・10・14 号漆紙文書は漆容器に付着した状態で廃棄されている。9 号漆紙文書が土師器坏、10 号漆紙文書が須恵器坏、14 号漆紙文書が白木の椀に付着する。また、3 号漆紙文書についても裏側が坏内面の形状に沿うようにゆるやかに弧をえがいているので、もとは坏などの容器に付着していたと考えられる。これら 3・9・10・14 号漆紙文書では紙と容器との間に 1 0cm 前後の漆の固まった部分がみられる。

なお、これらその他の漆紙文書の文字の残存状況はいずれも悪い。1・2・3・8・9 号漆紙文書では墨痕がみられるのみである。10・11・12・13・14 号漆紙文書ではそれぞれ数文字が確認できたが、文書の内容や性格がわかるほどではない。

《註》

註 1 第 203 図の墨書 151・205・206・1815 のように英字の「V」に似た墨書を便宜的に V 字状記号として一括した。他に同様の扱いをしたものに北 1 西 3 区の X 字状記号（第 204 図の墨書 257・268・1220）がある。

註 2 註 1 参照

註 3 この点は宮城県多賀城跡研究所の進藤秋輝氏のご教示による。

註 4 本報告書では文書の実際の表・紙背と区別するために漆紙文書の漆が付着しない面をオモテ面、添付着面をウルシ面と表記する。

《参考文献》

平川 南（1993）：「土器に記された文字」『月刊 文化財』362号



第203回 墨書書体集成1 (東西大路西2道路)



第204図 墨書書体集成2 (その他の道路跡、北1西3区)



第205回 墨書書体集成3 (南1西2区)

東司
S E 1606
墨書707

多比
S D 1602 B
墨書726

多花
S D 1602 B
墨書751

多木
S D 1602 B
墨書753

多鳥
S D 1602 B
墨書754

多
S D 1602 B
墨書724

多
S D 1602 B
墨書761

多
S D 1602 B
墨書749

多
S D 1602 B
墨書730

多
S D 1602 B
墨書1703

多
S D 3402
墨書2316

日
S E 1606
墨書708

日
S E 1606
墨書709

日
S E 1606
墨書1721

日
S D 1602 B
墨書750

日
S X 3461 B
墨書2301

日
S X 3461 B
墨書2302

日
道徳碑銘
墨書715

元
S D 1602 B
墨書725

元
S X 3461 D
墨書2333

元
S X 3461 B
墨書2320

元
道徳碑銘
墨書2326

元
S D 1602 B
墨書740

南 2 西 1 区

水

P 154
墨書2235

水
S D 3625
墨書2405

伊
S X 3205
墨書2335

その他の区

辰
4 册
墨書2681

泰
10 册
墨書2725

中
6 册
墨書622

新
10 册
墨書1006 底部

新
10 册
墨書1006 体部

新
9~12 册
墨書904

新
8 册
墨書2682

田
8 册
墨書927

中
4 册
墨書961

田
8~10 册
墨書2657

中
11 册
墨書2834

酒
5~8 册
墨書2628



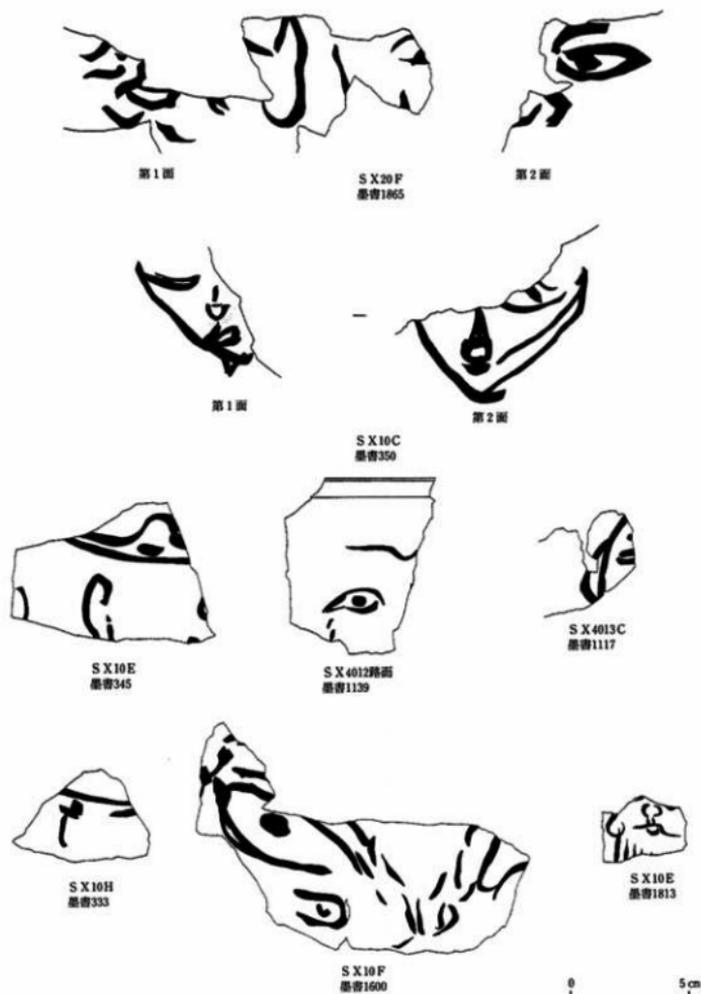
第206回 墨書書体集成 4 (南 2 西 1 区、その他の区、河川跡 1)



第207回 墨書書体集成5 (河川跡2)



第208回 墨書書体集成6 (河川跡3)



第209圖 人面墓甕集成1 (道路跡)



第4面

第1面

第2面

第3面

9層墨書2660



第4面

第1面

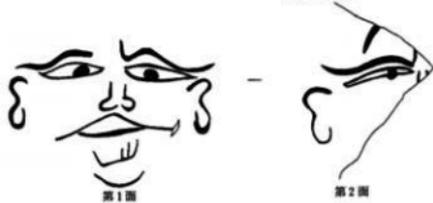


第2面



第3面

10層墨書2680



第1面

第2面

11層墨書1000



7層墨書854



第1面

第2面

10~12層墨書2695



10層墨書2665



12層墨書2641



第1面

第2面

8層墨書930



第1面

第2面

10層墨書2674



第210回 人面墨書集成2 (河川跡1)



第211回 人面墨書集成3 (河川跡2)



10~12層巻書2896



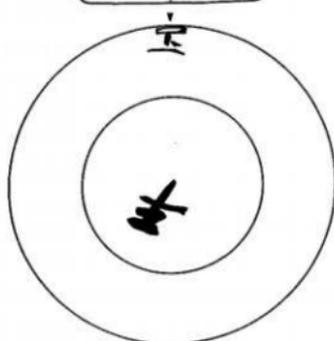
10層巻書2663



11層巻書2602



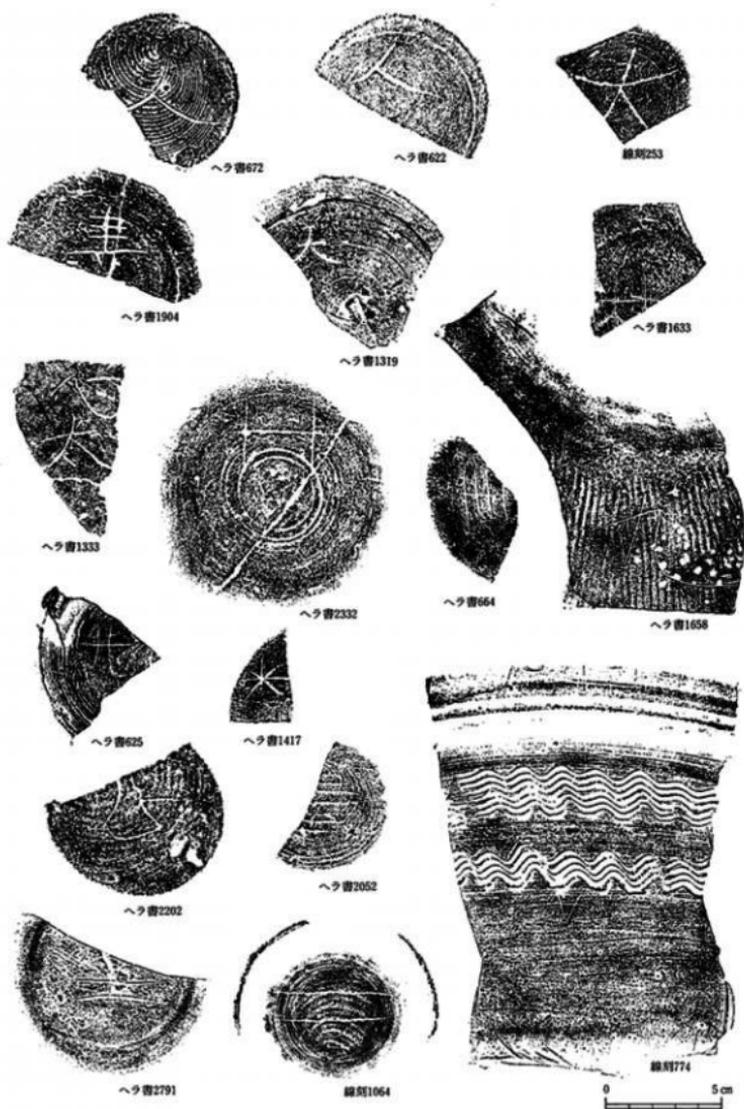
11層巻書2803



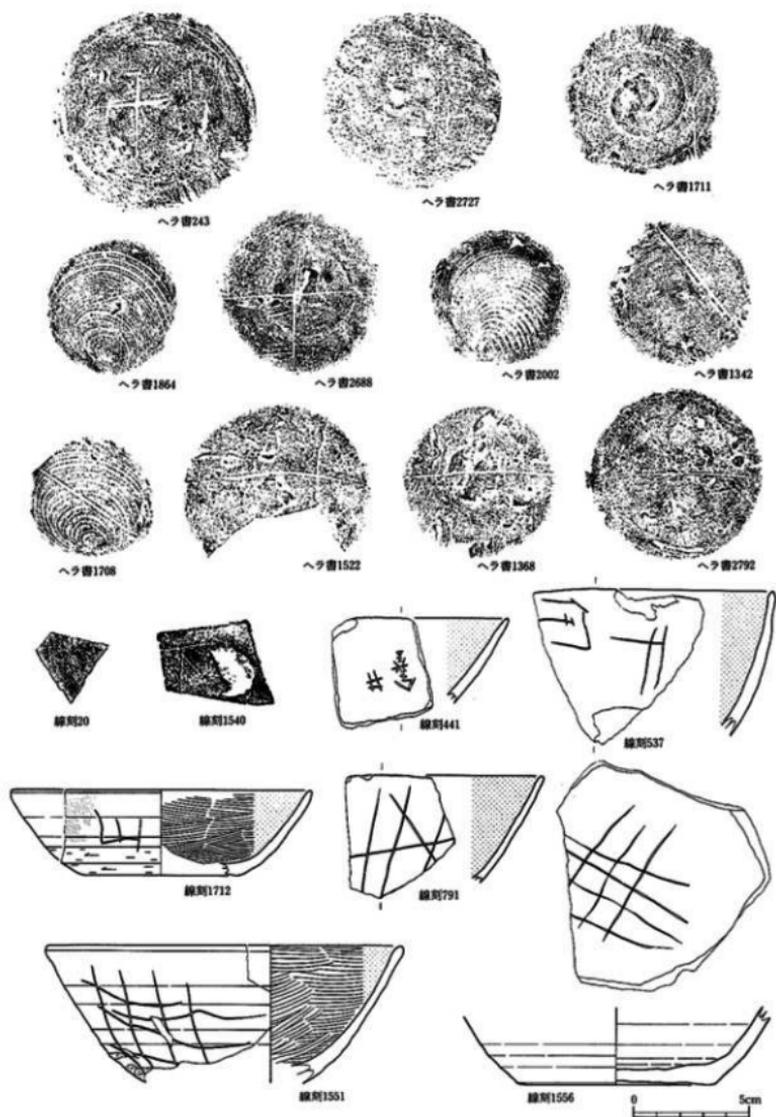
10層巻書2730



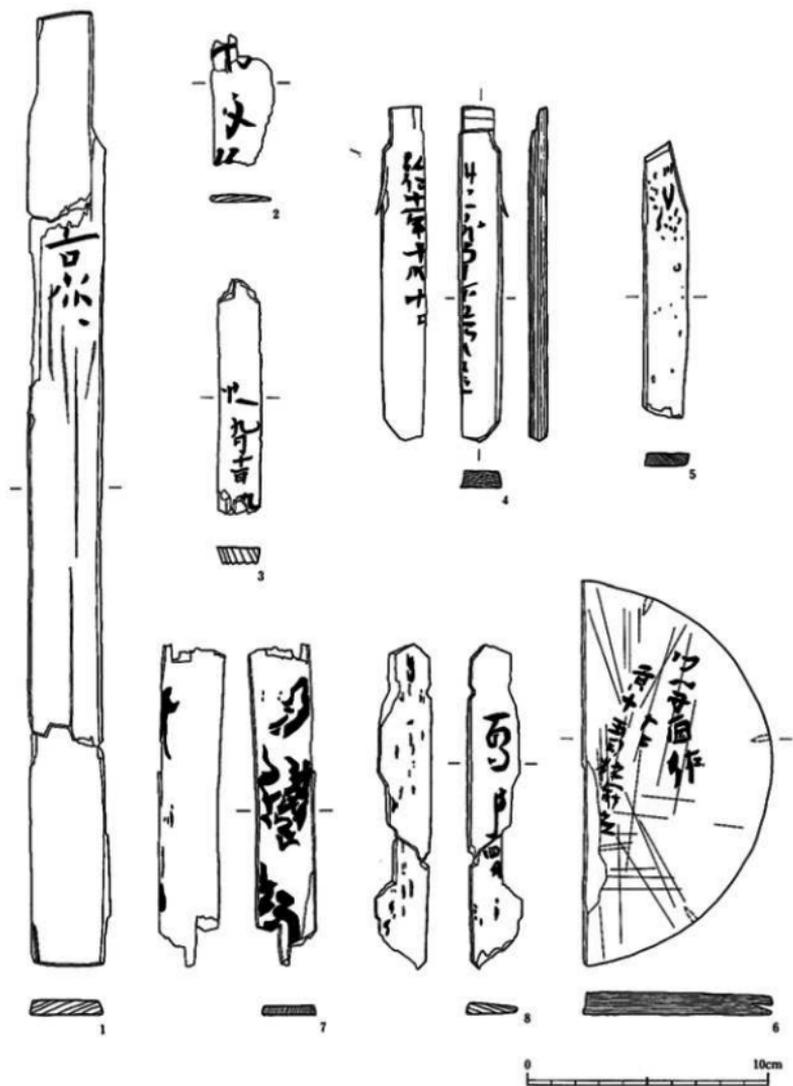
第212図 人面巻書集成4 (河川跡3) 及び呪符



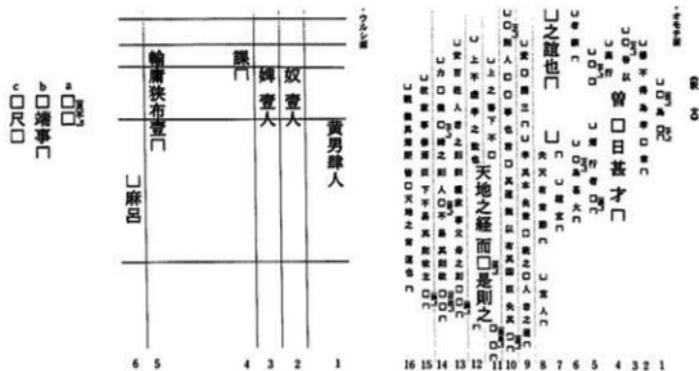
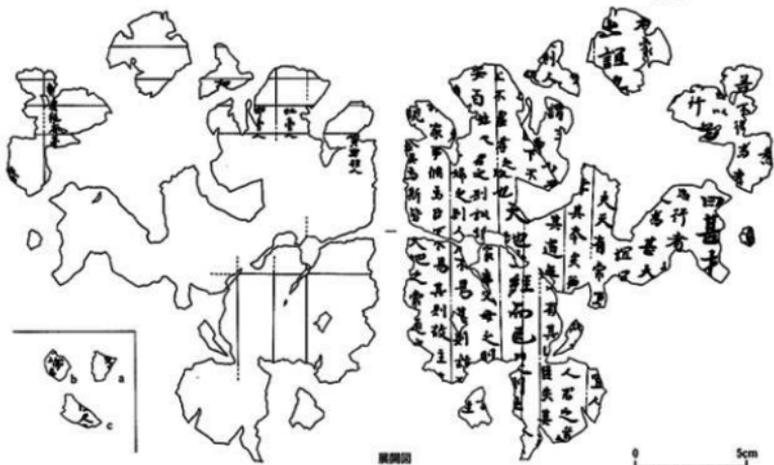
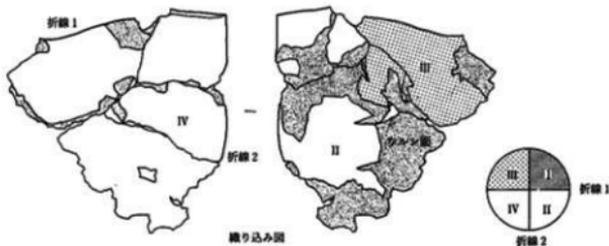
第213図 へら書・線刻書体集成 1



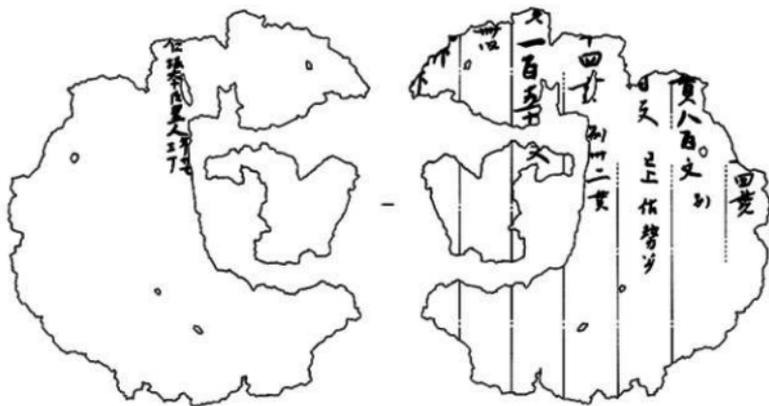
第214図 ヘラ書・線刻書体集成2



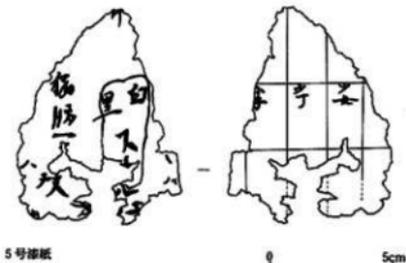
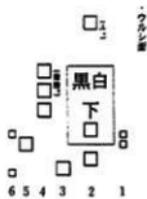
第215圖 木簡 1



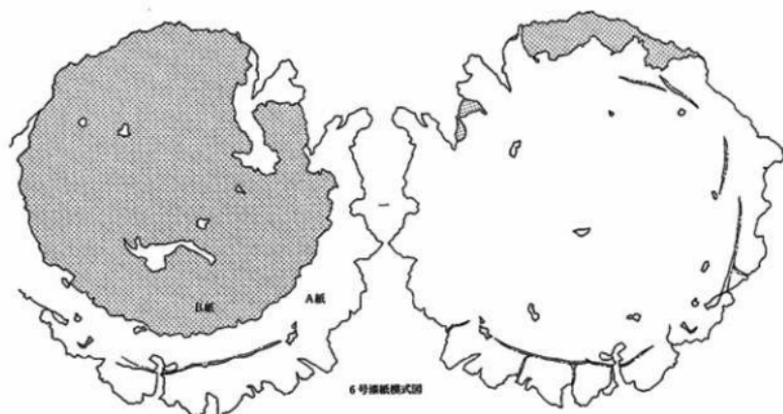
第217図 7号津紙文書



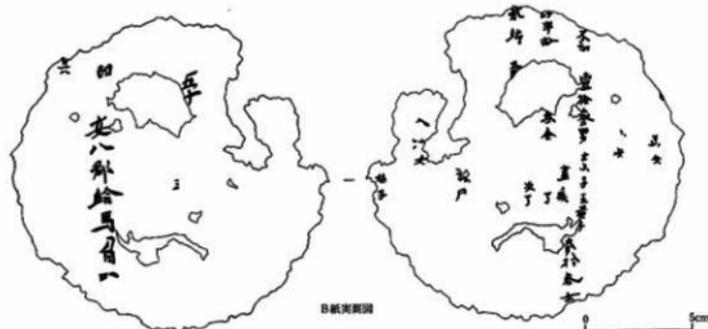
□ □ 坂本臣黒人
下丁



第218图 4・5号紙文書



6号濠紙模式图



B紙実測图

□ □ 五十
 □ □ 安八郎給馬 □ □
 3 2 1

□ □ 不讓 壹拾參男 武拾參女
 □ □ 半輪 參全 行
 武端 貳
 □ □ 小女
 □ □ 小女
 □ □ 子
 □ □ 子
 □ □ 子
 8 7 6 5 4 3 2 1

第219图 6号濠紙文書

第76表 主要墨書土器一覽表

(凡例)

- 1 本表は刊説した墨書の一覧表である。
- 2 同一遺跡出土のものは最初のものに遺物名を記し、以下は略した。
- 3 道跡陶片について SX20I 東側陶片は SX20I 東というように略した。
- 4 1 字墨書について□とすべきものは生と表現した。
- 5 分類は土師器環・須、須恵器環について、ロクロの使用と底部切彫し・再調整のあり方を中心に示した。また、土師器環のうち形の明らかなものはそれも示した。記号は土器分類の記号を踏襲しており、以下のとおりである
A…非ロクロ調整 B…ロクロ調整
1…回転ヘラケズリ 2…手持ちヘラケズリ 3…ヘラ切り無調整
4…糸切り無調整 5…その他・不明
I…長胴形 II…寸胴形
- 6 登録は墨書・ヘラ書・線刻土器を通し番号で一括して登録した。

東西大路西2 道跡

遺物・層位	墨書内容	器種・形	分期	記入部位	方向	登録	層位	写真回数	土師器図
SX20I 東 SX30I 東 SX10H 北	位 □ 口□左標所	須恵土 高 台 環	4	底 部	正位	391	203	95-1	25-8
		須恵土 高 台 環				153			
SX20H 西 SX30H 東 SX10G 南	全 人面	須恵土 高 台 環	4	底 部	正位	396	209	95-44	24-1 24-10 24-11
		須恵土 高 台 環				333			
		須恵土 高 台 環				1850			
		須恵土 高 台 環				34			
		須恵土 高 台 環				314			
		須恵土 高 台 環				315			
		須恵土 高 台 環				187			
		須恵土 高 台 環				1878			
		須恵土 高 台 環				1855			
		須恵土 高 台 環				1858			
SX10G 北	口川	須恵土 高 台 環	B5	底 部	正位	1860	203	95-38	23-9 23-11
		須恵土 高 台 環				1989			
SX20G 西	口上	須恵土 高 台 環	B2	底 部	正位	1502	203	95-47	22-2
		須恵土 高 台 環				1860			
SX30G 西 SX10F 北	大	須恵土 高 台 環	B4	底 部	横位	163	203	95-13	22-4
		須恵土 高 台 環				336			
SX20F 西 SX10E 南 SX10E 北	中 大 山 V 字状記号	須恵土 高 台 環	B4	底 部	正位	340	203	95-29	22-5 22-3
		須恵土 高 台 環				1247			
		須恵土 高 台 環				309			
		須恵土 高 台 環				165			
		須恵土 高 台 環				1597			
		須恵土 高 台 環				164			
		須恵土 高 台 環				152			
		須恵土 高 台 環				1501			
		須恵土 高 台 環				1600			
		須恵土 高 台 環				1803			
SX20F 西 SX10E 南 SX10E 北	人 人 人 川 上 川 道 代 上	須恵土 高 台 環	3	底 部	正位	1865	209	102-1	22-19
		須恵土 高 台 環				342			
		須恵土 高 台 環				22			
		須恵土 高 台 環				1835			
		須恵土 高 台 環				176			
		須恵土 高 台 環				1829			
		須恵土 高 台 環				167			
		須恵土 高 台 環				252			
		須恵土 高 台 環				1805			
		須恵土 高 台 環				1830			
SX20E 西 SX10D 北	大 大 大 山 山 山 山 山 山 山	須恵土 高 台 環	B2	底 部	正位	1810	203	95-6	20-6 20-6 20-21
		須恵土 高 台 環				250			
		須恵土 高 台 環				1832			
		須恵土 高 台 環				172			
		須恵土 高 台 環				1825			
		須恵土 高 台 環				1815			
		須恵土 高 台 環				178			
		須恵土 高 台 環				56			
		須恵土 高 台 環				1813			
		須恵土 高 台 環				344			
SX20E 西 SX10D 北	大 大 大 山 山 山 山 山 山 山	須恵土 高 台 環	B	底 部	正位	1811	209	102-3	20-12
		須恵土 高 台 環				1812			
		須恵土 高 台 環				1862			
		須恵土 高 台 環				1872			
		須恵土 高 台 環				1875			
		須恵土 高 台 環				1870			
		須恵土 高 台 環				1874			
		須恵土 高 台 環				349			
		須恵土 高 台 環				380			
		須恵土 高 台 環				66			
SX20D 東 SX10C 北東	生	須恵土 高 台 環	4	底 部	正位	89	203	95-31	19-3 19-13
		須恵土 高 台 環				371			
		須恵土 高 台 環				303			
		須恵土 高 台 環				365			
		須恵土 高 台 環				355			
		須恵土 高 台 環				356			
		須恵土 高 台 環				375			
		須恵土 高 台 環				370			
		須恵土 高 台 環				203			
		須恵土 高 台 環				357			

SX10C 北西	人座(2面)	土	脚	B II	部	正位	350	209	101-13	16-4
	人座	土	脚	B B	部	正位	90			
	人座	土	脚	B B	部	正位	360			
	人座	土	脚	B B	部	正位	361			
	人座	土	脚	B B	部	正位	362			
	人座	土	脚	B B	部	正位	369			
	伊北	土	脚	B B	部	正位	1529	203	95-7	17-26
	川内	土	脚	B B	部	正位	230			
	川内	土	脚	B B	部	正位	190			
	川内	土	脚	B B	部	正位	197			
	川内	土	脚	B B	部	正位	201			
	川内	土	脚	B B	部	正位	206			
	工	土	脚	B B	部	正位	229			
	外	土	脚	B B	部	正位	193			
	人力	土	脚	B B	部	正位	195			
	正	土	脚	B B	部	正位	189			
	大	土	脚	B B	部	正位	194			
	大	土	脚	B B	部	正位	202			
	大	土	脚	B B	部	正位	192			
	大	土	脚	B B	部	正位	203			
	中	土	脚	B B	部	正位	220			
	中	土	脚	B B	部	正位	1543			
	中	土	脚	B B	部	正位	254			
	中	土	脚	B B	部	正位	210			
	中	土	脚	B B	部	正位	228			
	中	土	脚	B B	部	正位	219			
	中	土	脚	B B	部	正位	203			
	中	土	脚	B B	部	正位	1550			
	中	土	脚	B B	部	正位	226			
	中	土	脚	B B	部	正位	211			
	中	土	脚	B B	部	正位	1933			
	中	土	脚	B B	部	正位	1553			
	中	土	脚	B B	部	正位	191			
中	土	脚	B B	部	正位	205				
中	土	脚	B B	部	正位	206				
中	土	脚	B B	部	正位	214				
中	土	脚	B B	部	正位	218				
中	土	脚	B B	部	正位	223				
中	土	脚	B B	部	正位	204				
中	土	脚	B B	部	正位	381				
中	土	脚	B B	部	正位	1876				
中	土	脚	B B	部	正位	1977				
中	土	脚	B B	部	正位	1978				
中	土	脚	B B	部	正位	1975				
中	土	脚	B B	部	正位	83				
中	土	脚	B B	部	正位	1582				
中	土	脚	B B	部	正位	14				
中	土	脚	B B	部	正位	140				
中	土	脚	B B	部	正位	144				
中	土	脚	B B	部	正位	147				
中	土	脚	B B	部	正位	152				
中	土	脚	B B	部	正位	15				
中	土	脚	B B	部	正位	245				
中	土	脚	B B	部	正位	246				
中	土	脚	B B	部	正位	1559				
中	土	脚	B B	部	正位	1947				
中	土	脚	B B	部	正位	139				
中	土	脚	B B	部	正位	142				
中	土	脚	B B	部	正位	1955				
中	土	脚	B B	部	正位	146				
中	土	脚	B B	部	正位	148				
中	土	脚	B B	部	正位	151				
中	土	脚	B B	部	正位	153				
中	土	脚	B B	部	正位	18				
中	土	脚	B B	部	正位	19				
中	土	脚	B B	部	正位	1962				
中	土	脚	B B	部	正位	1585				
中	土	脚	B B	部	正位	1587				
中	土	脚	B B	部	正位	1589				
中	土	脚	B B	部	正位	330				
中	土	脚	B B	部	正位	1980				
中	土	脚	B B	部	正位	1895				

南1西1道路

道標・方位	番書内容	種類・形	分類	記入部位	方向	登録	挿入	写真回収	土器種類	
SX1300F 北	守	土	脚	B4	体	正位	2201	204	96-8	30-1
SX1250F 東	中万	土	脚	B4	体	正位	605	204	96-7	29-14
SX1350F 東	五万	土	脚	B4	体	正位	628	204	96-6	30-14
	三重丸	土	脚	B4	体	正位	653	204		31-12
SX1350F 西	人座	土	脚	B1	体	正位	608			
SX1300D 北	人座	土	脚	B1	体	正位	2211			
SX1350D	山	土	脚	B3	体	正位	2204			
SX1250C 西	山	土	脚	B4	体	正位	665	204	96-9	28-20
SX3056	山	土	脚	B3	体	正位	649			
	山	土	脚	B3	体	正位	2232			

南2西0道路

道標・方位	番書内容	種類・形	分類	記入部位	方向	登録	挿入	写真回収	土器種類	
SX1900E 北	山	土	脚	体	部	正位	2308	204	96-10	35-3
SX1900 北原野	山	土	脚	体	部	正位	2310			

北1西3道路

遺構・層位	遺構内容	種類・形	分類	記入部位	方向	発見	層位	写真図版	土層層位
SK401E北	千代木	環	4	躯体	正面	1101	204	96-2	130-2
SD4013D北	木	環		躯体	正面	1108	204	96-2	130-2
SK4013C北	木	環	B II	躯体	正面	1113	209	102-2	130-2
SK4014B西	V字状記号	環	B1	躯体	側位	1117	204	96-1	14-1
SX4012跡部3層	伊ノ木	環	3	躯体	正面	1132	204	96-5	14-5
	V字状記号	環		躯体	側位	1137	209	102-5	14-5
	木	環	B II	躯体	正面	1139	209	102-5	14-5
SX4013北側溝	木	環	B I	躯体	正面	1105	204	96-3	
SX4044	木	環	B4	躯体	正面	1129	204	96-4	27-3
						1153	204	96-4	

北1西3区

遺構・層位	遺構内容	種類・形	分類	記入部位	方向	発見	層位	写真図版	土層層位
SK401	太一様書	環		躯体	正面	1934	204	96-24	
SE502		環		躯体	正面	276	204	96-27	42-2
SK503	1層 掘穴	環		躯体	正面	272	204		
		環		躯体	正面	283	204		
SK507	木	環	B4	躯体	正面	286	204		49-11
SK521	出	環	B4	躯体	正面	1227	204		49-2
SK530	□+万*	環	B4	躯体	正面	1248	204	96-23	52-3
SK531	天	環	B4	躯体	正面	1249	204	96-26	53-1
SK541	2層 定	環	B4	躯体	正面	1250	204		
	3層 定	環	B4	躯体	正面	1251	204		
	4層 定	環	B4	躯体	正面	96	204		
	5層 定	環	B4	躯体	正面	117	204	96-14	55-3
	6層 定	環	B4	躯体	正面	123	204	96-15	
	7層 定	環	B4	躯体	正面	124	204		
	8層 定	環	B4	躯体	正面	125	204		
	9層 定	環	B4	躯体	正面	127	204	96-39	55-4
	10層 定	環	B4	躯体	正面	128	204		
	11層 定	環	B4	躯体	正面	129	204		
	SK551	3層 定	環	B4	躯体	正面	130	204	96-38
4層 定		環	B4	躯体	正面	131	204		
5層 定		環	B4	躯体	正面	132	204		
6層 定		環	B4	躯体	正面	133	204		
7層 定		環	B4	躯体	正面	134	204		
8層 定		環	B4	躯体	正面	117	204	96-13	55-8
9層 定		環	B4	躯体	正面	116	204		
10層 定		環	B4	躯体	正面	118	204		
11層 定		環	B4	躯体	正面	119	204		
12層 定		環	B4	躯体	正面	120	204		
SE540	2層 折定	環	B4	躯体	側位	1255	204		66-6
SE579	2層 折定	環	B4	躯体	側位	292	204		
SK579	2層 口+万	環	3	躯体	側位	1379	204	96-17	
	2層 日	環	B4	躯体	正面	255	204	96-25	
	2層 智	環	B4	躯体	正面	1381	204		
	2層 智	環	B4	躯体	正面	1380	204		
	2層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	1382	204		
	2層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	1205	204		
	2層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	1206	204		
	3層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	1207	204	96-11	47-8
	3層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	260	204	96-30	47-17
	3層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	257	204	96-36	47-20
	3層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	206	204	96-36	47-26
	3層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	1219	204		
	3層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	1215	204		
	5層 X字状記号	環	B4	躯体	正面	268	204	96-31	47-15
	5層 #	環	B4	躯体	正面	1394	204	96-33	48-36
6層 神	環	B4	躯体	正面	269	204			
6層 智	環	B4	躯体	正面	1399	204			
6層 智	環	B4	躯体	正面	1300	204			
6層 智	環	B4	躯体	正面	1308	204			
SK581	1層 宮	環	3	躯体	側位	234	204	96-32	48-38
SB588	宮	環	B2	躯体	正面	1901	204	580-2	580-2
SB596	宮	環	B2	躯体	正面	1344	204	96-16	40-5
SK619	宮	環	B2	躯体	正面	1280	204	96-35	40-4
SB609	宮	環	B2	躯体	正面	270	204		
SB660	宮	環	B2	躯体	正面	1329	204		
SK847	1層 宮	環	3	躯体	側位	1245	204	96-19	
	2層 宮	環	3	躯体	側位	1408	204		
	2層 宮	環	3	躯体	側位	271	204	96-28	43-9
	2層 宮	環	3	躯体	側位	1227	204	96-18	43-8
	2層 宮	環	3	躯体	側位	1302	204		
	2層 宮	環	3	躯体	側位	1232	204		
	2層 宮	環	3	躯体	側位	1406	204		
	2層 宮	環	3	躯体	側位	274	204	96-34	43-14
	2層 宮	環	3	躯体	側位	1235	204	96-12	43-15
	2層 宮	環	3	躯体	側位	1409	204		
SK848	1層 田	環	A	躯体	正面	2082	204	600-1	
SK855	1層 田	環	B1	躯体	正面	2017	204		
SK859	1層 田	環	B1	躯体	正面	2018	204	96-21	61-2
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2019	204	96-20	61-1
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2020	204		
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2021	204		
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2022	204	96-22	
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2030	204		
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2039	204		
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2066	204	96-29	39-13
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	2064	204		
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	1375	204		
SK960	1層 田	環	B1	躯体	正面	1410	204		

南1西1区

道標・層位	基岩内容	種類・形	分期	記入部位	方向	数量	種類	写真回数	土層群別
SK7224	#	土	部	部	部	部	部	部	部

南1西2区

道標・層位	基岩内容	種類・形	分期	記入部位	方向	数量	種類	写真回数	土層群別
SA1	川	土	B2	体	部	36	205	97-15	
SK8	1層 崖	土	B2	体	部	27	205		
SK250	2層 穴	土	B2	体	部	49	205		
SK63		土	B2	体	部	100	205	97-23	60D-2
SK74	1層	土	B2	体	部	1507	205		
SK1004		土	B2	体	部	10	205	97-47	
SK1008		土	B2	体	部	529	205		
SD1020C		土	B2	体	部	531	205		
		土	B2	体	部	546	205		
		土	B2	体	部	468	205	97-35	73D-6
		土	B2	体	部	1671	205	97-1	73D-3
		土	B2	体	部	472	205	97-26	83-7
		土	B2	体	部	438	205	97-8	
		土	B2	体	部	479	205	97-9	83-17
		土	B2	体	部	544	205		
		土	B2	体	部	547	205		
		土	B2	体	部	548	205	97-10	83-19
		土	B2	体	部	553	205		
		土	B2	体	部	554	205	97-11	83-18
		土	B2	体	部	558	205	97-7	83-5
		土	B2	体	部	1619	205		
		土	B2	体	部	1620	205	97-6	83-2
		土	B2	体	部	436	205		
		土	B4	体	部	551	205		
		土	B4	体	部	541	205	97-31	83-9
		土	B4	体	部	505	205		
		土	B4	体	部	1611	205	97-42	83-22
		土	B4	体	部	556	205	97-43	83-23
		土	B4	体	部	450	205	97-24	81-1
		土	B4	体	部	538	205	97-25	81-4
		土	B4	体	部	451	205	100-37	81-7
		土	B4	体	部	449	205		
		土	B4	体	部	1603	205		
		土	B4	体	部	1602	205		
		土	B4	体	部	525	205	97-2	81-2
		土	B4	体	部	540	205		
		土	B4	体	部	1622	205		
		土	B4	体	部	452	205		
		土	B4	体	部	561	205		
		土	B4	体	部	560	205	97-3	79-15
		土	B4	体	部	502	205		
		土	B4	体	部	503	205	97-13	83-3
		土	B4	体	部	504	205	97-14	83-8
		土	B4	体	部	506	205		
		土	B4	体	部	505	205	97-34	81-6
		土	B4	体	部	502	205		
		土	B4	体	部	586	205		
		土	B4	体	部	559	205		
		土	B4	体	部	562	205		
		土	B4	体	部	1626	205		
		土	B4	体	部	569	205		
		土	B4	体	部	507	205		
		土	B4	体	部	1638	205		
		土	B4	体	部	1640	205		
		土	B4	体	部	508	205		
		土	B4	体	部	1641	205	97-19	74D-3
		土	B4	体	部	510	205		
		土	B4	体	部	477	205	97-16	
		土	B4	体	部	469	205		
		土	B4	体	部	575	205		
		土	B4	体	部	577	205		
		土	B4	体	部	444	205		
		土	B4	体	部	588	205		
		土	B4	体	部	589	205	97-32	86-3
		土	B4	体	部	618	205		
		土	B4	体	部	637	205		
		土	B4	体	部	638	205		
		土	B4	体	部	615	205		
		土	B4	体	部	613	205		
		土	B4	体	部	676	205		
		土	B4	体	部	619	205	97-41	69D-2
		土	B4	体	部	656	205	97-42	69D-3
		土	B4	体	部	657	205		
		土	B4	体	部	659	205	97-46	69D-1
		土	B4	体	部	454	205		
		土	B4	体	部	594	205	97-4	75D-4
		土	B4	体	部	590	205	97-5	75D-10
		土	B4	体	部	401	205		
		土	B4	体	部	404	205	97-21	76-10
		土	B4	体	部	457	205	97-20	76-7
		土	B4	体	部	455	205	97-22	76-5
		土	B4	体	部	396	205		
		土	B4	体	部	407	205		
		土	B4	体	部	456	205		
		土	B4	体	部	600	205	97-40	76-3
		土	B4	体	部	411	205	97-34	76-16
		土	B4	体	部	409	205		
		土	B4	体	部	410	205	97-2	76-2
		土	B4	体	部	599	205	97-28	76-4
		土	B4	体	部	413	205		
		土	B4	体	部	415	205		

南2西2区

遺構・層位	遺構内容	遺構・形	分類	記入部位	方向	登録	検出	写真図版	土層種類	
SK3063 SK3065 P154	4層 □*W*W 得	土	築	環	B	正面	2233	206	98-21	89-5
						体底	2235	206	98-33	
						体	2235	206	98-33	

河川以南

遺構・層位	遺構内容	遺構・形	分類	記入部位	方向	登録	検出	写真図版	土層種類
SD0625 溝跡確認	人堀 色粉	土	築	環	A II	正面	2401	206	1130-3
						体底	2405	736	1130-3

SD2000 河川跡

遺構・層位	遺構内容	遺構・形	分類	記入部位	方向	登録	検出	写真図版	土層種類	
1層	伏合文* 又文* 又工* 一字少□	土	築	環	B4	正面	1058	208	100-45	1120-1
体底						885	207	99-50	1120-3	
2層	字少□ 村次出□	土	築	環	B4	正面	883	208	100-5	1120-12
体底						884	208	99-34	1120-2	
3層	川	土	築	環	B4	正面	1008	207	99-34	1120-13
						体	923	208		1120-9
3~4層	人堀 人堀上 川	土	築	環	B2	?	2613	208	100-20	111-2
						体底	2619	208	100-21	111-6
3~4層	川	土	築	環	B4	正面	2617	208	100-27	111-6
						体底	2655	211	102-5	111-4
3~6層	川	土	築	環	B4	側位	1040	207	99-11-12	111-7
						側位	1061	207	99-1	111-3
3~6層	川	土	築	環	B A	正面	1021			
						正面	1022			
4層	川	土	築	環	B3	正面	1023	211	103-3	111-5
						正面	2622			
4層	川	土	築	環	B4	正面	2621	207	99-36	111-9
						正面	261	206	98-22	110-13
4~5層	川	土	築	環	B4	正面	208	102-24	110-15	110-15
						正面	961	206	98-24	110-3
4~5層	川	土	築	環	B4	正面	964	207	99-38	110-11
						正面	825			
4~5層	川	土	築	環	B1	正面	963			
						正面	1001	208	101-6	110-10
4~5層	川	土	築	環	B4	正面	896			
						正面	2633			
4~5層	川	土	築	環	B4	正面	2653			
						正面	2624	207	99-42	108-1
5~10層	川	土	築	環	B4	正面	2628	206	98-35	108-2
						正面	2636			
5~10層	川	土	築	環	不明B II	正面	2856			
						正面	2857			
5~10層	川	土	築	環	不明B II	正面	2653			
						正面	2642	207	99-21	109-19
5~10層	川	土	築	環	不明B II	正面	2643			
						正面	2644			
5~10層	川	土	築	環	不明B II	正面	2645			
						正面	2649			
5~10層	川	土	築	環	不明B II	正面	2858			
						正面	2859			
6層	川	土	築	環	B II	正面	822	206	98-29	109-13
						正面	805	207	99-3	109-11
6層	川	土	築	環	B4	正面	898			
						正面	903			
6層	川	土	築	環	B2	側位	807	208	100-19	108-3
						側位	803	208	100-7	108-4
6層	川	土	築	環	B2	側位	810	207	98-28	108-7
						側位	811	208	101-4	108-5
6層	川	土	築	環	B4	側位	842	208	101-9	109-15
						側位	1054			
6~12層	川	土	築	環	B	側位	1057			
						側位	854	210	103-1	108-7
7層	川	土	築	環	B4	側位	809			
						側位	820	208	100-3	108-2
7~8層	川	土	築	環	B4	側位	836			
						側位	931	207	99-17	
7~8層	川	土	築	環	B1	側位	834			
						側位	946			
7~8層	川	土	築	環	B1	側位	991			
						側位	921			
7~8層	川	土	築	環	B2	側位	839			
						側位	950	208	100-4	
7~12層	川	土	築	環	B II	側位	839			
						側位	1046			
7~12層	川	土	築	環	B	側位	819	208	100-23	108-4
						側位	967	208	100-9	108-3
7~12層	川	土	築	環	B4	側位	824			
						側位	843			
7~12層	川	土	築	環	B2	側位	887			
						側位	812	208	100-30	108-5
8層	川	土	築	環	B II	側位	823			
						側位	813			
8層	川	土	築	環	B4	側位	1042	208	100-1	106-18
						側位	2671			
8層	川	土	築	環	B4	側位	2678			
						側位	927	206	98-23	107-46
8層	川	土	築	環	B4	側位	911			
						側位	912	207	99-44	107-29
8層	川	土	築	環	B4	側位	995	207	99-24	106-1
						側位				

	官一休・底			1050	208	99-46	106-25
	官合			990		99-16	106-47
	官有			992	207		106-12
	官手			997			107-52
	一上もに			907	207	99-14	106-15
	一十			937	208	100-26	106-6
	一十			951	208	100-43	107-60
	一十			916	208	100-33	106-2
	一十			888	207	99-32	106-13
	一十			2674		99-45	106-16
	一十			2656		100-31	106-5
	一十			2631	208		
	一十			2680			
	一十			909	207	99-6	107-38
	一十			934	207	99-4	106-7
	一十			935	207	99-5	107-28
	一十			953	207	99-7	106-3
	一十			1077	207		106-11
	一十			2682	206	98-37	107-36
	一十			2532	208	101-10	106-14
	一十			2683	208	100-46	107-37
	一十			943	208	101-2	104-7
	一十			2677			
	一本線一本			929	211	103-11	107-31
	一人(2面)			930	210		107-33
	一人			2657	206	98-30	106-8
	一人			2662	208		102-60
	一人			2691			
	一人			2692			
	一人			861	208	100-18	104-4
	一人			996	208	100-6	104-8
	一人			946	207	99-33	104-2
	一人			2731	207	99-28	104-17
	一人			2686			
	一人			859	207		
	一人			2694			
	一人			2693			
	一人			2696	208	101-11	104-15
	一人			2860	211	104-3	104-23
	一人			2861	211	103-6	104-12
	一人			2862			
	一人			2868	211	102-5	104-10
	一人			2863			
	一人			876	207	99-19	104-9
	一人			849	207	99-9	97-10
	一人			858	207	99-8	97-7
	一人			878			
	一人			845			
	一人			852			
	一人			847			
	一人			848			
	一人			877			
	一人			804	206	98-36	102-68
	一人			866		100-42	104-19
	一人			860			
	一人			861			
	一人			867			
	一人			2730	212	103-14	103-71
	一人			2699	207	99-2	100-17
	一人			2747	208	100-2	102-57
	一人			2704	206		
	一人			1006	208	99-31-32	100-21
	一人			2748	208	100-14	102-52
	一人			873			
	一人			954	207	99-26	103-77
	一人			2734	207	99-25	100-26
	一人			2713	208	100-44	100-28
	一人			2789	208	100-13	102-53
	一人			2763			
	一人			2797	208	100-38	103-73
	一人			2781	207	99-26	102-44
	一人			2741	208	100-17	103-76
	一人			972	207	99-18	102-65
	一人			2791			
	一人			2739	207	99-15	100-14
	一人			208	208	100-29	103-79
	一人			2735	208	100-11	102-56
	一人			2743	208	100-34	102-58
	一人			2760	208	100-10	100-18
	一人			2742	208	100-28	102-51
	一人			2736			
	一人			2746	207	99-40	103-72
	一人			2751			
	一人			2796	207	99-22	102-55
	一人			2718	207	99-43	100-24
	一人			2768			
	一人			1076			
	一人			1035			
	一人			2782	208	100-16	102-61
	一人			2726	207	99-10	100-10
	一人			1036	208	100-15	100-27
	一人			2720	208	100-39	100-23
	一人			2725	206	98-25	100-11
	一人			1067	207	99-37	100-15
	一人			1034			
	一人			2715			
	一人			2786	207	99-39	102-63
	一人			872			
	一人			2698			
	一人			2701			
	一人			2729			
	一人			2762			
	一人			1029			

第77表 主要へら書土器一覧表

(凡例)

1 本表は判読したへら書の一覧表である。

2 表示方法は墨書土器一覧表にほぼ準ずるが、一本線、二本線、十字のへら書については各々、一、二、十と表示した。

東西大路西2道路

遺構・層位	へら書内容	器種・形	分類	記入部位	方向	登録	検出	写真図版	土器検出
SX101北	+a	須置	器	3	底	那	1923		
SX301東	-	環	器	3	底	那	47		
SX104北	+	環	器	3	底	那	156		
	+a	須置	器	3	底	那	1944		
SX20H西	+a	須置	器	3	底	那	1851		24-5
SX20G西	+a	須置	器	3	底	那	1863		
SX10F南	-a	土	器	B4	底	那	398		
SX20F南	+	土	器	B4	底	那	1864	214	
SX30F東	+	土	器	B4	底	那	1518		
	-a	須置	器	B2	底	那	1926		
SX10E南	-a	須置	器	3	底	那	1504		
	-a	須置	器	3	底	那	1505		
	+a	須置	器	4	底	那	1506		
SX10E北	-	須置	器	3	底	那	1833		
	+a	須置	器	3	底	那	1844		
	-	須置	器	3	底	那	1968		
	+a	須置	器	3	底	那	1511		
SX10D北	+a	須置	器	5	底	那	1928		
SX10C南西	+a	須置	器	3	底	那	328		
SX10C北東	+a	須置	器	3	底	那	363		
	+a	須置	器	3	底	那	1523		
	+a	須置	器	3	底	那	1528		
	-	須置	器	3	底	那	88		
	-a	須置	器	3	底	那	1522	214	105-22
	-a	須置	器	3	底	那	1525		
	-a	須置	器	3	底	那	1527		
	-a	須置	器	3	底	那	1533		
	-a	須置	器	3	底	那	1535		
	-a	須置	器	3	底	那	1974		
	+a	須置	器	B1	底	那	1520		
SX10C北西	+	須置	器	3	底	那	199		
	+a	須置	器	3	底	那	227		
	+a	須置	器	B4	底	那	1544		
	+a	須置	器	3	底	那	1549		
	+a	須置	器	B2	底	那	1932		
	+	世陶	器	3	底	那	1973		
	-a	須置	器	3	底	那	216		
	-a	須置	器	3	底	那	1542		
	-a	須置	器	3	底	那	1545		
	-a	須置	器	2	底	那	1546		
	-a	須置	器	3	底	那	1548		
SX10輪廻1層	+a	須置	器	3	底	那	1996		
SX30輪廻1層	-a	須置	器	3	底	那	1964		
SX10輪廻2層	+a	須置	器	5	底	那	44		
SX20輪廻2層	+a	須置	器	B2	底	那	1562		
	-	土	器	B4	底	那	1976		
SX10北輝振り	-	土	器	B4	底	那	244		
	#	土	器	B4	底	那	1957		
SX10扉振り	-	土	器	3	底	那	1960		
	-a	土	器	B4	底	那	1963		
SD317	+a	土	器	B4	底	那	1967		
SK410	+a	土	器	B4	底	那	1971		
	+a	土	器	B4	底	那	1890		

南1西1道路

遺構・層位	へら書内容	器種・形	分類	記入部位	方向	登録	検出	写真図版	土器検出
SX1300F南	キ	土	器	B	底	那	2202	213	
SX1300F東	-a	土	器	B4	底	那	651		30-9
	+a	土	器	A	底	那	652		
SX1300E北	+a	土	器	A	底	那	2203		
SX1250E西	+a	土	器	A	底	那	645		
SX1250C東	-	土	器	5	底	那	648		
SX1350C西	+a	土	器	5	底	那	2215		
SX1350輪廻	-	土	器	B4	底	那	2206		

南2西0道路

遺構・層位	へら書内容	器種・形	分類	記入部位	方向	登録	検出	写真図版	土器検出
SX1900扉振り	+a	土	器	4a	底	那	2311		
SX1900F北	+a	土	器	B2	底	那	1713		

北1西3道路

道構・層位	へろ書内容	照種・形	分類	記入部位	方向	登録	押印	写真図版	土層押印
SX4012E南	+	須賀土	3	底	部	1110			
SX4012B北	+	須賀土	3	底	部	1146			
SX4012路面	1層	須賀土	B4	底	部	1150			
SX4013路面	2層	須賀土	3	底	部	1106			
SX4012路面	3層	須賀土	3	底	部	1147			
	+	須賀土	3	底	部	1144			
	+	須賀土	3	底	部	1151			
SX4013	+	須賀土	3	底	部	1130			
SX4014	+	須賀土	3	底	部	1131			
SF4001	+	須賀土	3	底	部	1148			
SX4009	+	須賀土	3	底	部	1149			
SX4042	1層	須賀土	3	底	部	1132			
SX4030	-	須賀土	3	底	部	1132			

北1西3区

道構・層位	へろ書内容	照種・形	分類	記入部位	方向	登録	押印	写真図版	土層押印
SK401	全	須賀土	3	底	部	1904			
SB447	+	須賀土	1	底	部	1403	213	105-4	
SD501	+	須賀土	A	底	部	1327			
	+	須賀土	3	底	部	1330			
	+	須賀土	3	底	部	1331			
	+	須賀土	3	底	部	1422			
	2層	須賀土	1	底	部	1329			
	+	須賀土	1	底	部	1417	213	105-13	
SE502	1層	須賀土	3	底	部	1291			
SK503	+	須賀土	B4	底	部	1432			
SK506	+	須賀土	B4	底	部	1429			
SK524	+	須賀土	B4	底	部	1351			
SD827	+	須賀土	B4	底	部	1430			
SK530	+	須賀土	3	底	部	1414			
S1531	+	須賀土	B4	底	部	1433			45-6
SK532	+	須賀土	4	底	部	1352			
SK533	3層	須賀土	B4	底	部	1358			
SD535	+	須賀土	B4	底	部	1334			
SD537	3層	須賀土	B4	底	部	1431			53-4
SD538	+	須賀土	3	底	部	1335			
SK541	+	須賀土	B2	底	部	1354			
	1層	須賀土	3	底	部	1355			
	2層	須賀土	B4	底	部	1356			
	3層	須賀土	3	底	部	1357			
	4層	須賀土	B4	底	部	1428			
SK549	+	須賀土	B4	底	部	1418			
SK551	+	須賀土	B4	底	部	1414			56-7
S1552	+	須賀土	B4	底	部	1360			46-5
	+	須賀土	3	底	部	1361			
SD553B	東側	須賀土	3	底	部	1347			
	+	須賀土	3	底	部	1348			
SD553G	□太	須賀土	3	底	部	1333	213	105-7	
SD553I	+	須賀土	3	底	部	1336			
	+	須賀土	3	底	部	1337			
SD563	1層	須賀土	3	底	部	1338			
	1層	須賀土	3	底	部	1339			
SB575	+	須賀土	3	底	部	1316			
SK576	+	須賀土	4	底	部	1424			
SD580	+	須賀土	3	底	部	1341			
SD581	1層	須賀土	B4	底	部	1342	214		
	+	須賀土	3	底	部	1343			
SB586	+	須賀土	3	底	部	1318			
SB588	天	須賀土	1	底	部	1319	213	105-5	
SB589	+	須賀土	3	底	部	1427			
SB595	+	須賀土	3	底	部	1322			
SD624	+	須賀土	3	底	部	2025			
	+	須賀土	4	底	部	2047			
	+	須賀土	3	底	部	1345			
SD643	+	須賀土	3	底	部	272			
SE660	+	須賀土	2	底	部	1303			
	2層	須賀土	3	底	部	1246			
SK662	+	須賀土	3	底	部	1371			
SK667	+	須賀土	B4	底	部	1307			
SB685	+	須賀土	B4	底	部	1323			
SB695	+	須賀土	3	底	部	1416			
SK716	1層	須賀土	3	底	部	1369			
SK722	+	須賀土	3	底	部	1368			
SB751	+	須賀土	3	底	部	1324	214	105-23	
SB754	+	須賀土	3	底	部	1325			
SK820	+	須賀土	3	底	部	2001			
	+	須賀土	B2	底	部	2002	214		
S1822	+	須賀土	3	底	部	2065			
SA823A	東側	須賀土	3	底	部	2060			63-2
	+	須賀土	3	底	部	2061			63-3
	+	須賀土	3	底	部	2007			
SK828	+	須賀土	3	底	部	2009			
SD834	+	須賀土	2	底	部	2010			
	+	須賀土	B	底	部	2012			
SK841	+	須賀土	3	底	部	2016			
SK844	+	須賀土	3	底	部	2031			
SK847	+	須賀土	4	底	部	2032			

	土 十	須 須	須 須	高 須	高 須	台 須	環 須	環 須	3	底 底	部 部	部 部	625 2236 2237	213	105-12	
--	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---	--------	--------	--------	---------------------	-----	--------	--

南2西1区

遺構・層位	へラ書内容	器種・形	分類	記入部位	方向	登録	押印	写真図版	土層押図
SD1602B	1層	-	土	須	環	B4		779	
	1層	-	土	須	環	B4		781	
	1層	-	土	須	環	B4		1708	214
	1層	-	土	須	環	B4		780	
SE1606	1層	+ a	土	須	環	B4		1717	
SD1609	1層	+ a	土	須	環	3		1711	214
SK1610	1層	+ a	土	須	環	B		1718	
SD1627	1層	+ 山	土	須	環	B1		1712	
SK1740	4層	-	土	須	環	3		1719	
S I 3435	1層	- 七 廿	土	須	環	B1		2342	105-8
SK3455		*	土	須	環	B1		765	105-10
SX3459		*	土	須	環	B		773	
SX3461D 南		三本線	土	須	環	不明		2325	
			土	須	環	不明		765	
			土	須	環	B		773	
遺構確認西		+	土	須	環	3		1720	

SD2000 河川跡

遺構・層位	へラ書内容	器種・形	分類	記入部位	方向	登録	押印	写真図版	土層押図
1層	+ a	土	須	環	B4			1670	
	+ a	土	須	環	B4			2601	
2~3層	+ a	土	須	環	5			902	
4層	-	土	須	環	4			1674	
	-	土	須	環	B4			1673	
4~5層	-	土	須	環	B4			1672	
5~8層	+ a	土	須	環	3			2903	
5~10層	+ a	土	須	環	4			2668	
6層	-	土	須	環	3			857	
	-	土	須	環	2			811	
7~8層	+ a	土	須	環	B4			923	
	+ a	土	須	環	3			922	
8層	-	土	須	環	3			2684	
9層	+ a	土	須	環	3			2688	214
9~12層	+ a	土	須	環	3			879	
	+ a	土	須	環	B1			871	97-4
	+ a	土	須	環	B2			2905	97-2
10層	四本線	土	須	環	3			2901	103-82
	九	土	須	環	3			1065	
	+	土	須	環	B			2700	
	+	土	須	環	不明			2727	214
	+	土	須	環	3			2782	
	+	土	須	環	B1			2904	
	+ a	土	須	環	3			1066	100-6
	+ a	土	須	環	4			2737	
	-	土	須	環	B2			1038	
	-	土	須	環	3			2792	214
	-	土	須	環	3			2784	
	- a	土	須	環	3			1067	
	=	土	須	環	3			2732	
	+ a	土	須	環	3			2791	213
11層	+ a	土	須	環	3			2814	
	+ a	土	須	環	3			2825	98-32
	+ a	土	須	環	3			2815	
	+ a	土	須	環	3			2821	
	三本線	土	須	環	3			2902	
12層	+ a	土	須	環	3			2839	99-47